ONKYO®

AV センター

TX-SA502

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■5.1チャンネルアンプにサラウンドバックスピーカーを追加した6.1チャンネル出力

■ドルビー*デジタル、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能

■DTS**、DTS-ES Discrete（ディスクリート） 6.1、DTS-ES Matrix（マトリックス） 6.1、DTS Neo（ネオ） : 6、DTS 96/24サラウンド再生可能

■MPEG（エムペグ）-2 AAC再生可能

■ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「ピュアオーディオ」リスニングモード搭載

■5.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audio（オーディオ）プレーヤーへの拡張性を実現

■D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統装備

■4系統のS-Video（ビデオ）入力端子装備

■デジタル入力端子として光2系統、同軸1系統、デジタル出力端子として光1系統装備

■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）

■96kHz/24bit D/Aコンバーター搭載

■信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路

■ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路

■他機の操作を可能にするプリプログラムド機能搭載のリモコン付属

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
"Dolby"、"ドルビー"、"Pro Logic" およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

** 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS-ES Extended Surround"および"Neo : 6"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

ホームシアターを楽しもう ーまずはここからはじめよう!ー

接続をする

初期設定をする

こんなこともできます

設定をする（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

こんなこともできます

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

こんなこともできます

設定をする（音響効果編）

その他

録音・録画する

接続した製品を本機のリモコンで操作する

TX-SA502(03)(SN29343661) 3 04.3.22, 1:32 PM
ブラック

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

∅記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容(左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●電源を入れたときは音量（ボリューム）に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
●キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

TX-SA502(04-07)(SN29343661)　6　04.3.22, 1:33 PM
ブラック

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

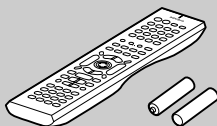
●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

付属品を確認する

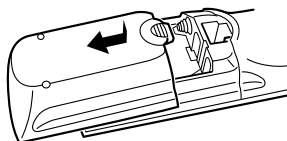
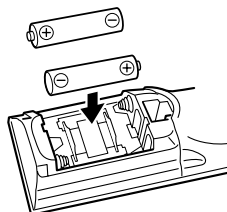
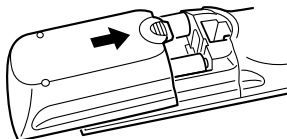
■付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-569M）… （1）
乾電池（単三形、R6）… （2）

スピーカーコード用ラベル… （1）

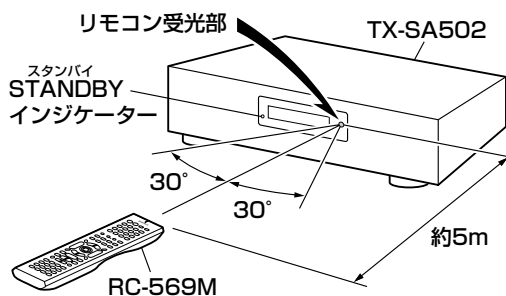
取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・
修理窓口のご案内…（1）

リモコンを準備する

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池の交換時には、単3形をご使用ください。

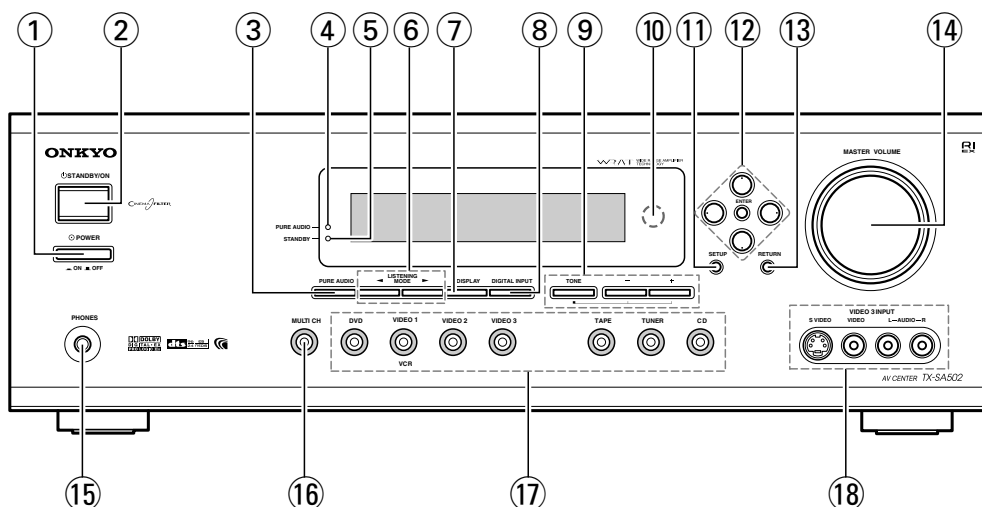
リモコンを使う

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。

① POWERスイッチ〔32〕
本機の主電源を入/切します。主電源が入るとSTANDBYインジケーターが点灯します。

② STANDBY/ONボタン〔32〕
主電源が入っているときに電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

③ PURE AUDIO ボタン〔42〕
リスニングモードを「Pure Audio」にします。

④ PURE AUDIOインジケーター〔42〕
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、点灯します。

⑤ STANDBYインジケーター〔32〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

⑥ LISTENING MODE◀/▶ボタン〔42〕
リスニングモードを選びます。

⑦ DISPLAYボタン〔40〕
表示部の情報を切り換えます。

⑧ DIGITAL INPUTボタン〔33〕
デジタル入力信号の種類を切り換えます。

⑨ TONE ＋/－ボタン〔41〕
低音、高音を調整するときに使用します。＋ボタンを押すとレベルが高くなり、－ボタンを押すと低くなります。

⑩ リモコン受光部〔8〕
リモコンからの信号を受信します。

⑪ SETUPボタン〔34〜36、46、48〜51〕
いろいろな設定を行います。

⑫ カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタン〔34〜36、46、48〜51〕
設定項目を選択します。中央のENTERボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑬ RETURN ボタン
設定中に表示部を1つ前の表示に戻します。

⑭ MASTER VOLUMEつまみ〔37〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･78・79・Maxの範囲で調整できます。

⑮ PHONES端子〔38〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑯ MULTI CHボタン〔39〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

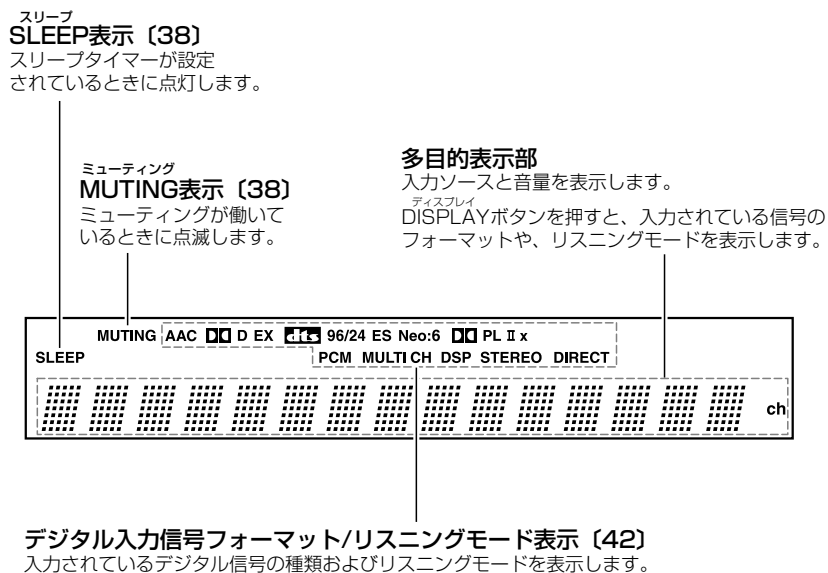
⑰ 入力切換ボタン（DVD、VIDEO1〜3、TAPE、TUNER、CD）〔37、42、47〕
再生する機器を選びます。

⑱ VIDEO 3 INPUT端子〔26、47〕
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

表示部

SLEEP（スリープ）表示〔38〕
スリープタイマーが設定
されているときに点灯します。

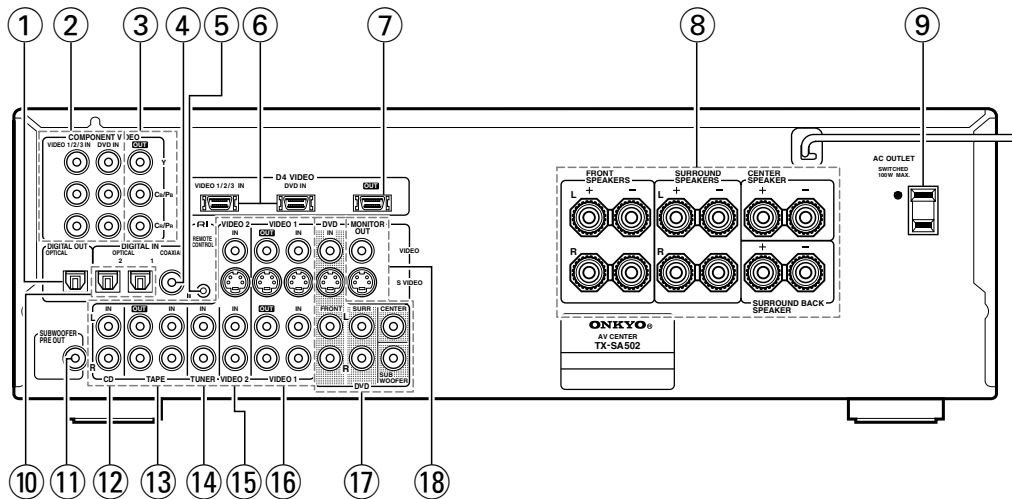
デジタル入力信号フォーマット/リスニングモード表示〔42〕
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

入力信号フォーマット表示

表示	フォーマット
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC

リスニングモード表示

表示	リスニングモード
DIRECT	Direct
STEREO	Stereo
DD PL II	PL II Movie/Music/Game
DD PL II x	PL II x Movie/Music/Game
dts Neo:6	Neo:6 Cinema/Music
DD D	Dolby Digital
DD D EX	Dolby Digital EX
dts	DTS
dts 96/24	DTS 96/24
dts ES	DTS−ES
dts Neo:6	DTS + Neo:6
DD EX dts	DTS + Dolby EX
AAC	AAC
AAC DD EX	AAC + Dolby EX
DSP	オンキヨー独自のDSP

TX-SA502(09-15)(SN29343661) 10 04.3.22, 1:35 PM
ブラック

後面パネル

① DIGITAL OUT端子（OPTICAL）〔29〕
デジタル音声の出力端子。光デジタルケーブルを使って録音機器を接続します。

② COMPONENT DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子〔19、23、25〕
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

③ COMPONENT VIDEO OUT端子〔22〕
本機からコンポーネント映像を出力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

④ DIGITAL IN端子（COAXIAL）〔18～29〕
デジタル音声の入力端子。同軸ケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

⑤ RI REMOTE CONTROL端子〔30、31〕
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥ D4 VIDEO DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子〔19、23、25〕
接続した機器からD映像を入力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑦ D4 VIDEO OUT端子〔22〕
本機からD映像を出力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑧ スピーカー端子〔17〕
スピーカーを接続します。

⑨ AC OUTLET（電源コンセント）〔29〕
本機に接続する機器の電源プラグを接続することができます。

⑩ DIGITAL IN 1、2端子（OPTICAL）〔18～29〕
デジタル音声の入力端子。光デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

⑪ SUBWOOFER PRE OUT端子〔17〕
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します。

⑫ CD IN端子〔27、28〕
オーディオ用ピンコードを使ってCDプレーヤーを接続します。

⑬ TAPE IN/OUT端子〔28、29〕
オーディオ用ピンコードを使ってテープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑭ TUNER IN端子〔27〕
オーディオ用ピンコードを使ってチューナーを接続します。

⑮ VIDEO 2 IN端子〔20、24、25〕
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキや、BS/CSチューナーなどを接続します。

⑯ VIDEO 1 IN/OUT端子〔23、24〕
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキなどを接続します。

⑰ DVD IN端子〔18、19〕
DVDプレーヤーを接続します。

⑱ MONITOR OUT端子〔22〕
接続した映像機器の映像を、本機を通してテレビなどのモニターに映します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-569M）

AMPモード（本機を操作するとき）

詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。
本機を操作する前に、AMPボタンを押してください。

ONボタン〔32〕
本機の電源を入れます。

入力切換ボタン〔37、42、47〕
再生する機器を選びます。

TONE＋/－ボタン〔41〕
低音、高音(Bass、Treble)を調整します。

REMOTE MODEボタン〔12～15、53〕
このリモコンは、これらのボタンでリモコン自体のモードを切り換えることによって、本機に接続した他の機器も操作することができます。リモコン操作時に設定されているモードのMODEボタンが点灯します。

DIMMERボタン〔38〕
表示部の明るさを切り換えます。

RETURNボタン
設定中に、表示部を1つ前の表示に戻します。

DISPLAYボタン〔40〕
表示部の表示を切り換えます。

リスニングモードボタン〔42〕

ALL STボタン
リスニングモードを「オールチャンネルステレオ」に切り換えます。

SURRボタン
入力されている信号に対応するリスニングモードを選びます。

PURE Aボタン
リスニングモードを「ピュアオーディオ」に切り換えます。

DIRECTボタン
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。

STEREOボタン
リスニングモードを「ステレオ」に切り換えます。

DSP◀/▶ボタン
リスニングモードをオンキヨー独自のリスニングモードから選びます。

STANDBYボタン〔32〕
本機をスタンバイ状態にします。

MULTI CHボタン〔39〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

AMPボタン
リモコンをAMPモードに設定し、本機を操作できるようにします。
本機を操作するときは、まずこのボタンを押してください。
また、本機に RI 接続したチューナーやカセットデッキを操作する場合にもこのボタンを押してください。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン〔34～36、46、48～51〕
設定中に上下左右に押して項目を選択します。中央を押すと、選択した項目を確定します。

SLEEPボタン〔38〕
スリープタイマーを設定します。

VOL▲/▼ボタン〔37〕
音量を調整します。

MUTINGボタン〔38〕
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン〔34～36、46、48～51〕
表示部に設定内容を表示させます。

オーディオ設定ボタン

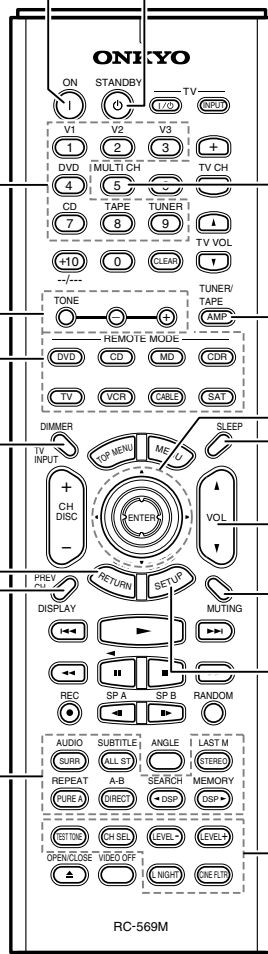
LEVEL＋/－ボタン〔36〕
CH　SELボタンで選択したスピーカーレベルを調整します。

CINE FLTRボタン〔48〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

L NIGHTボタン〔48〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

TEST TONEボタン〔36〕
スピーカーの音量レベルを設定するときに使用します。

CH SELボタン〔36〕
距離または音量レベルを調整したいスピーカーを選択します。

TX-SA502(09-15)(SN29343661)　12　04.3.22, 1:35 PM
ブラック

本機に付属のリモコンでRI接続をしたオンキヨー製品を操作することができます。RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。RI接続した機器を操作するときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

DVDプレーヤーを操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のDVDボタンを押して、再生する機器をDVDに設定してください。接続するDVDプレーヤーや再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。

DVD MODEボタン
DVDプレーヤーを操作するときは、まずこのボタンを押してリモコンをDVDモードにしてください。

TOP MENUボタン
DVDのトップメニュー画面を表示します。

DISC＋/－ボタン
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

RETURN/EXITボタン
DVDのメニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

DISPLAYボタン
DVDプレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
II ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
◀II/II▶ ボタン
スロー再生、コマ送り再生をします。

AUDIOボタン
音声を切り換えます。

SUBTITLEボタン
字幕言語を切り換えます。

REPEATボタン
くり返し再生をします。

A-Bボタン
A-Bくり返し再生をします。

⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクトレイを開閉します。

ONボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

STANDBYボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

数字ボタン（1～9,+10,0）
チャプター番号などを選択します。

CLEARボタン
入力した項目を取り消します。

MENUボタン
DVDのメニュー画面を表示します。

▲/▼/◀/▶/ENTERボタン
DVDのメニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央を押すと、選択した項目を確定します。

本機の操作
VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

SETUPボタン
DVDの設定項目を表示します。

RANDOMボタン
ランダム再生をします。

LAST Mボタン
再生する場所を記憶させます。

ANGLEボタン
カメラアングルを切り換えます。

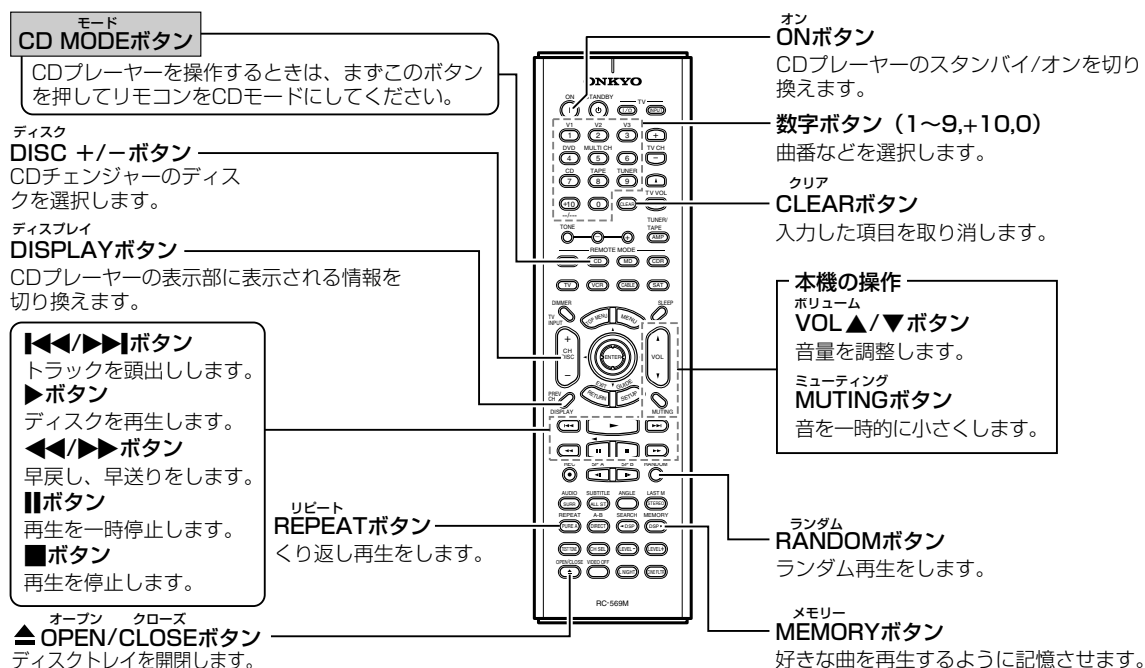
MEMORYボタン
好きな曲/場面順に再生するように記憶させます。

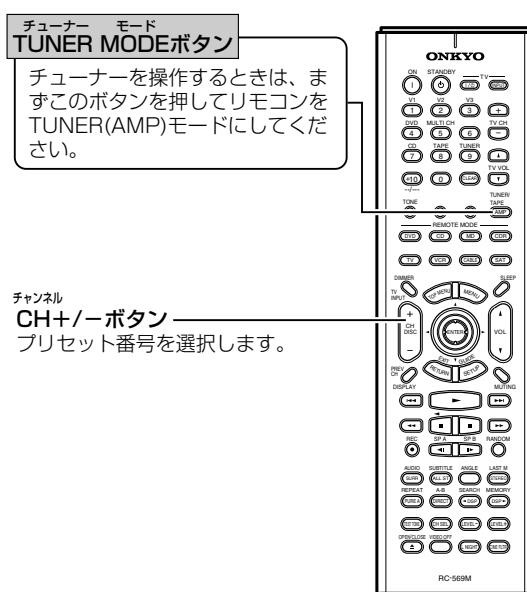
SEARCHボタン
再生したい場所を指定します。

VIDEO OFFボタン
映像出力を切ることによって、より良い音で再生します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

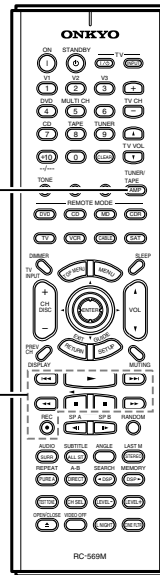
CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

CDプレーヤーを操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のCDボタンを押して、再生する機器をCDに設定してください。

TUNERモード（本機にRI接続したチューナーを操作するとき）

チューナーを操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のTUNERボタンを押して、再生する機器をTUNERに設定してください。

TAPEモード（本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき）

カセットデッキを操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のTAPEボタンを押して、再生する機器をTAPEに設定してください。

TAPE MODEボタン
カセットデッキを操作するときは、まずこのボタンを押してリモコンをTAPE(AMP)モードにしてください。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
テープを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
巻戻し、早送りをします。
◀ボタン
裏面を再生します。
■ボタン
再生を停止します。
●RECボタン
録音一時停止状態にします。

ご注意

- 製品や録音状態によっては、⏮/⏭ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。
- ダブルカセットデッキをご使用の場合は、デッキBのみを操作することができます。

MD/CDRモード（本機にRI接続したMDレコーダーやCDレコーダーを操作するとき）

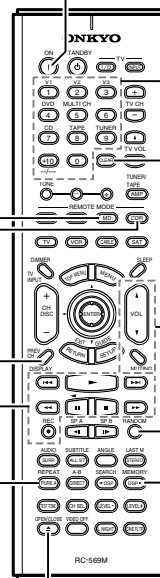
MDレコーダーやCDレコーダーを操作するときは、34ページの設定で表示部の表示をTAPEからMDまたはCDRに変更する必要があります。操作する前に、AMPボタンを押してから入力切換のTAPEボタンを押して、本機の表示部をMDまたはCDRにしてください。

MD MODEボタン
MDレコーダーを操作するときは、まずこのボタンを押してリモコンをMDモードにしてください。

CDR MODEボタン
CDレコーダーを操作するときは、まずこのボタンを押してリモコンをCDRモードにしてください。

DISPLAYボタン
再生機器の表示部に表示される情報を切り換えます。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
‖ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
●RECボタン
録音一時停止状態にします。

REPEATボタン
くり返し再生をします。

ONボタン
MDレコーダーまたはCDレコーダーのスタンバイ/オンを切り換えます。

数字ボタン（1～9,+10,0）
曲番などを選択します。

CLEARボタン
入力した項目を取り消します。

本機の操作
VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。
MUTINGボタン
音を一時的に小さくします。

RANDOMボタン
ランダム再生をします。

MEMORYボタン
好きな曲を再生するように記憶させます。

⏏ OPEN/CLOSEボタン
ディスクを取り出します。

ホームシアターを楽しもう – まずはここからはじめよう! –

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生機器の信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)

左右フロントスピーカー
総合的に音声を出力します。
ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。
視聴位置の前方に配置します。
音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

センタースピーカー
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。
できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

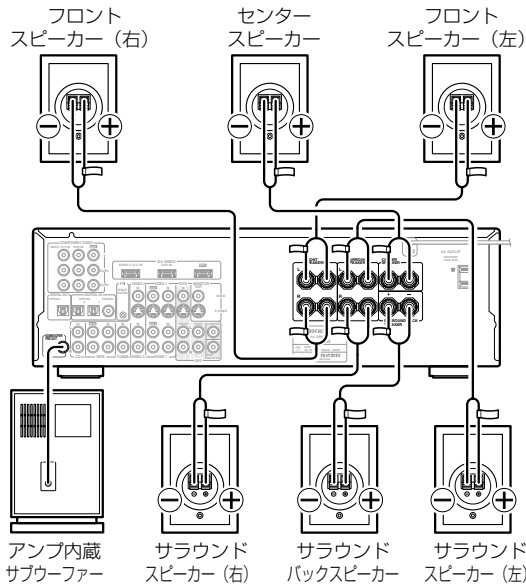
サラウンドバックスピーカー
サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。
視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

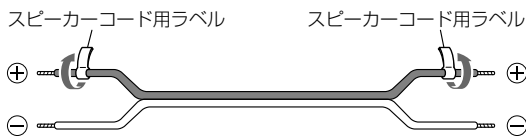
サブウーファー
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。
部屋の隅、または部屋の1/3の位置に配置します。

左右サラウンドスピーカー
臨場感を高める役割を果たします。
効果音などで音の立体的な動きを表現します。
視聴位置の横または後斜めに配置します。
左右対象で視聴者の耳より1m高い位置が理想です。

- 電源を入れたらまず、接続したスピーカーの「有/無」を設定してください。(☞34ページ)
  接続や設定が正しくできたかどうか、テストトーンで確認することをお勧めします。
- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。(☞36、51ページ)

スピーカーを接続する

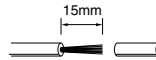
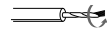
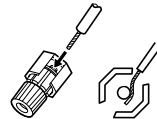
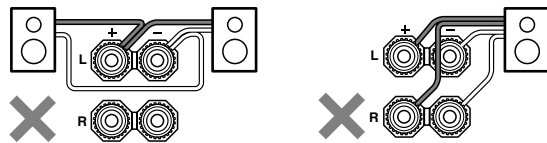
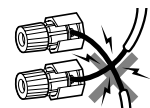
スピーカーの配置については16ページをご覧ください。
本機にはインピーダンスが6Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。インピーダンスが6Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。

スピーカーコード用ラベルの使いかた

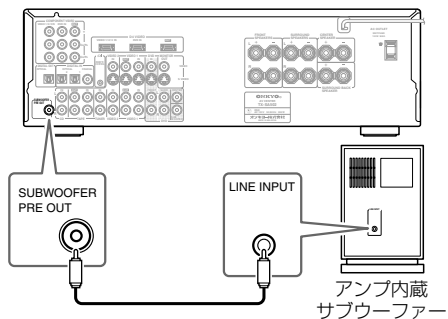
本機はスピーカー端子の⊕側に色をつけて識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。
本機のスピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント	：**白**	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：**赤**	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：**緑**	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：**青**	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：**灰**	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
サラウンドバック	：**茶**	サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る

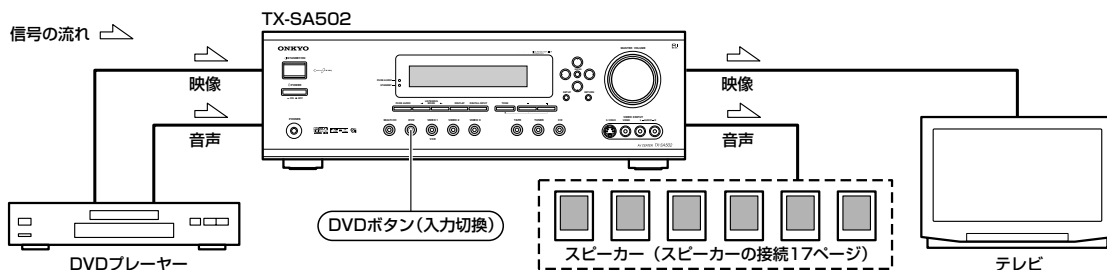
スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

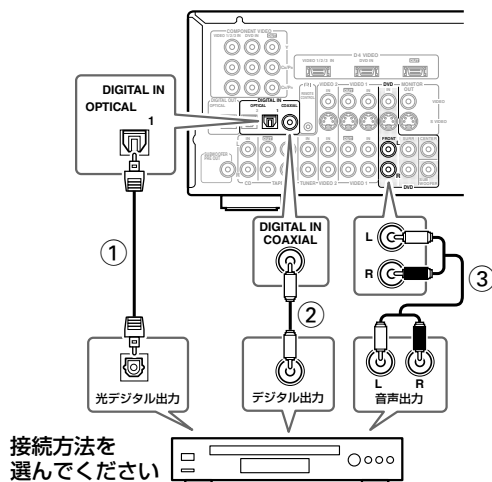
①スピーカーコードの被覆を15mmカットする
②しん線の先端をしっかりとよじる

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをSUBWOOFER PRE OUT端子に接続します。

DVDをホームシアターで楽しむ

DVDをお楽しみになるときは、映像接続と音声接続の2種類を行ってください。本機に映像と音声を両方接続することにより、入力切換の「DVD」ボタン1つで、DVDプレーヤーの再生を選ぶことができます。DVDプレーヤーの映像を本機を通してテレビやプロジェクターに映し出し、本機でホームシアターをお楽しみください。

1. あなたのDVDプレーヤーにはどんな音声出力端子がありますか？
（DVDプレーヤーの音声を本機に送る）

あなたのDVDプレーヤーに装備されている音声出力端子をご確認の上、必要な接続を行ってください。

DVDプレーヤーの音声出力端子	端子の形状	接続方法	33ページの設定
光デジタル端子（OPTICAL）	OPTICAL	①	不要
同軸デジタル端子（COAXIAL）	COAXIAL	②	必要
アナログ端子（ANALOG）	L R	③	接続③のみの場合は、必要

①：**DVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN OPTICAL 1端子を接続してください。**
ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しむことができます。
- DVDの音声をアナログ録音したいとき、オンキヨー製品と本機をRI連動させたいときは、③の接続も行ってください。

②：**DVDプレーヤーに光デジタル出力端子がないときは、同軸デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN COAXIAL端子を接続してください。**
電源を入れて、33ページでDVDのデジタル入力端子の設定を「COAX」にすると、デジタル入力された音楽を楽しむことができます。ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードも楽しむことができます。
- DVDの音声をアナログ録音したいとき、オンキヨー製品と本機をRI連動させたいときは、③の接続も行ってください。

③：**DVDプレーヤーにデジタル出力端子がないとき、DVDの音声をアナログ録音したいとき、オンキヨー製のDVDプレーヤーを本機とRI連動させたいとき（30ページ）に、DVDプレーヤーのアナログ音声出力端子と本機のDVD IN L/R端子を接続してください。**
- アナログ接続（接続③）のみのときは、33ページでDVDのデジタル入力端子の設定を「−−−−」にする必要があります。
- ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しむには①または②の接続が必要です。

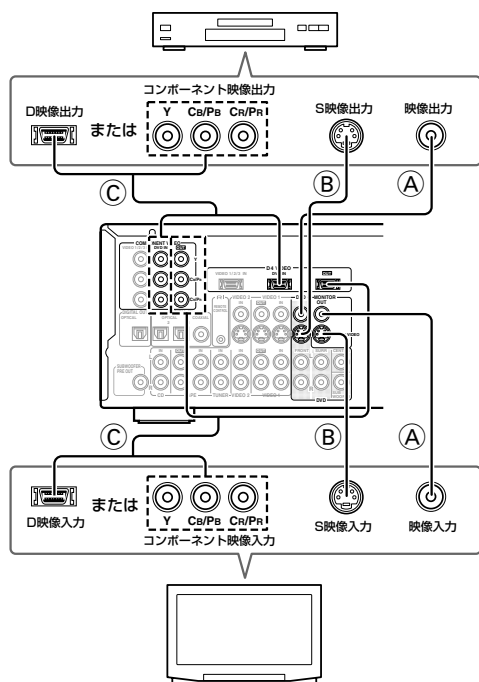
！ヒント

DVDオーディオやスーパーオーディオCD対応の再生機器と接続する場合、マルチチャンネル接続が必要です。（☞22ページ）

2. あなたのDVDプレーヤーとテレビにはどんな映像端子がありますか？
（DVDの映像を本機を通してテレビに送る）

あなたのDVDプレーヤーに装備されている映像出力端子とテレビに装備されている映像入力端子をご確認の上、下表の欄にチェックマークを入れてください。

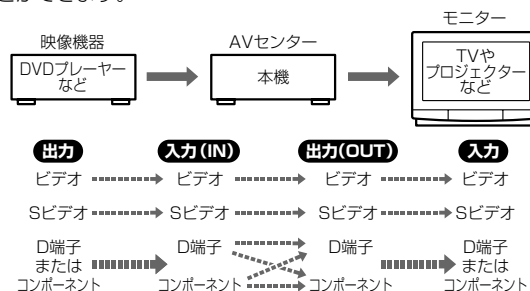
映像端子	端子の形状	DVDプレーヤーの映像出力	テレビの映像入力	接続方法
ビデオ端子（コンポジット）	VIDEO	✔	✔	Ⓐ
Sビデオ端子	S VIDEO			Ⓑ
D端子または コンポーネント端子	Y CB/PB CR/PR D4			Ⓒ

DVDプレーヤーとテレビの両方の欄にチェックマークがついた接続方法を**1つ選んで接続**してください。チェックマークが片方しかない接続方法では映像が出ません。

**Ⓐ：ビデオ（コンポジット）端子は、多くのテレビやDVDプレーヤーに装備されています。
ビデオコードで接続してください。**

**Ⓑ：Ⓐの接続方法より、良い画質が得られます。
Sビデオコードで接続してください。**

**Ⓒ：ⒶやⒷの接続方法より、良い画質が得られます。
D端子用接続コードやコンポーネントビデオコードを使って、DVDプレーヤーと本機をD端子またはコンポーネント端子のどちらかで接続し、テレビと本機もD端子またはコンポーネント端子のどちらかで接続してください。**

！ヒント

本機はD端子からの入力信号をコンポーネント映像に変換したり、コンポーネント端子からの入力信号をD映像に変換することができます。たとえば、D端子でDVDプレーヤーと接続した場合、テレビと本機をコンポーネント接続しても映像を見ることができます。

ご注意

同じ名前のD端子とコンポーネント端子を両方接続しないでください。たとえば、D端子のDVD INとコンポーネント端子のDVD INを、それぞれDVDプレーヤーとビデオデッキに接続しても正しく映像を入力できません。同様に、D4 OUT端子とCOMPONENT OUT端子をそれぞれ別のテレビに接続しても正しく映像が出力されません。

3. 電源コードを接続して本機の電源を入れてください

テレビとDVDプレーヤーの電源も入れてください。
テレビはビデオ入力を本機の入力に切り換えてください。

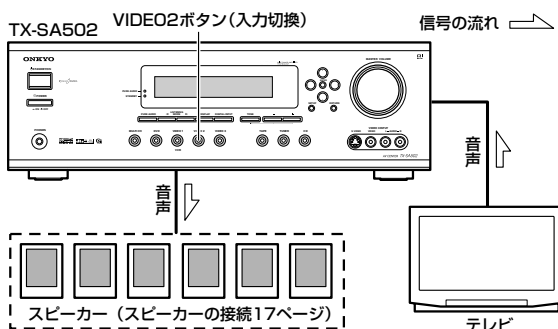
4. 入力切換の「DVD」ボタンを押してください

DVDを再生してください。DVDプレーヤーの再生を楽しむことができます。
- 手順**1.**で①や②の接続をしたとき、ディスクによってドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しむことができます。

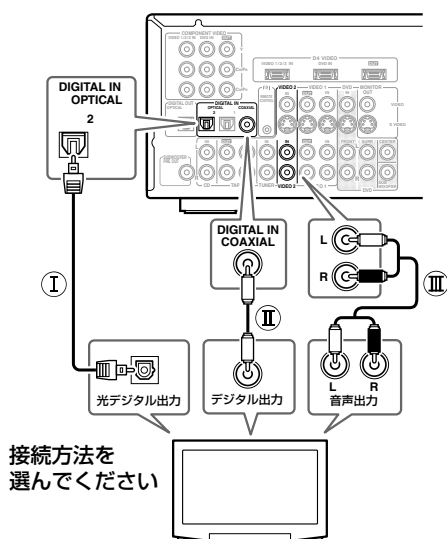
ご注意

手順**1.**で②の接続をした場合や、③の接続のみをした場合、33ページでDVDのデジタル入力端子の設定を変更する必要があります。

テレビの音声をホームシアターで楽しむ

テレビの音声出力を本機に接続すると、テレビの音声をいろいろなリスニングモードでお楽しみいただくことができます。

1. あなたのテレビにはどんな音声出力端子がありますか?（テレビの音声を本機に送る）

あなたのテレビに装備されている音声出力端子をご確認の上、必要な接続を行ってください。

テレビの音声出力端子	端子の形状	接続方法	33ページの設定
光デジタル端子（OPTICAL）	OPTICAL	Ⅰ	不要
同軸デジタル端子（COAXIAL）	COAXIAL	Ⅱ	必要
アナログ端子（ANALOG）	L R	Ⅲ	接続Ⅲのみの場合は、必要

! ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続してください。この場合、本機の「VIDEO 1」ボタンを押してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーでテレビチャンネルを選ぶと、ビデオデッキからの音声を本機で楽しむことができます。

Ⅰ: テレビの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN OPTICAL 2端子を接続してください。
BSデジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しむことができます。
- テレビの音声をアナログ録音したいとき、RIオーディオコントロール端子付きテレビと連動させたいときは、Ⅲの接続も行ってください。

Ⅱ: テレビに光デジタル出力端子がないときは、テレビの同軸デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN COAXIAL端子を接続してください。
電源を入れて、33ページでVIDEO 2のデジタル入力端子の設定を「COAX」にすると、デジタル入力された音楽を楽しむことができます。
- BSデジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しむことができます。
- テレビの音声をアナログ録音したいとき、RIオーディオコントロール端子付きテレビと連動させたいときは、Ⅲの接続も行ってください。

Ⅲ: デジタル出力端子がないとき、テレビの音声をアナログ録音したいとき、またはRIオーディオコントロール端子付きテレビと連動させたいとき（31ページ）は、テレビのアナログ音声出力端子と本機のVIDEO 2 IN L/R端子を接続してください。
- アナログ接続（接続Ⅲ）のみのときは、33ページでVIDEO 2のデジタル入力端子の設定を「––––」にする必要があります。
- BSデジタルや地上デジタルのサラウンド放送を楽しむためには、Ⅰ または Ⅱ どちらかの接続が必要です。

2. 電源コードを接続して本機の電源を入れてください

テレビの電源も入れてください。

3. 入力切換の「VIDEO 2」ボタンを押してください

テレビの再生を楽しむことができます。
いろいろなリスニングモードをお楽しみください。（☞42ページ）
- ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しむためには、Ⅰ または Ⅱ の接続が必要です。

ご注意

手順***1.***で Ⅱ の接続をした場合や、Ⅲの接続のみをした場合、33ページでVIDEO 2のデジタル入力端子の設定をする必要があります。

! ヒント

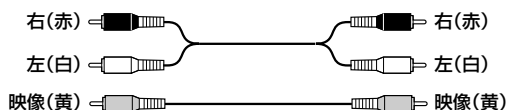
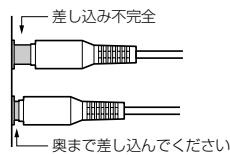
テレビのデジタル音声出力には、設定が必要な場合があります。デジタル接続した音声が出ないときや、再生しているデジタルフォーマットと違うフォーマットが本機に表示されているときは、テレビの設定を確認してください。（たとえば、テレビでAAC信号を受信しているのに、本機の表示部にPCMと表示されるとき、など）

接続をする

■ 接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類

ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネントビデオコード	Y / CB / CR	Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像よりよい画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

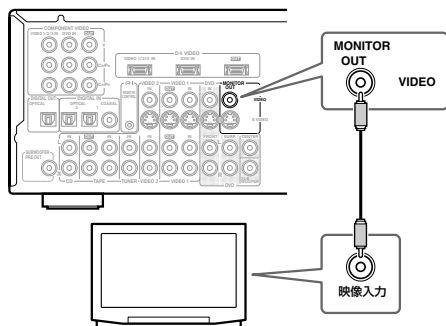
音声ケーブルと端子の種類

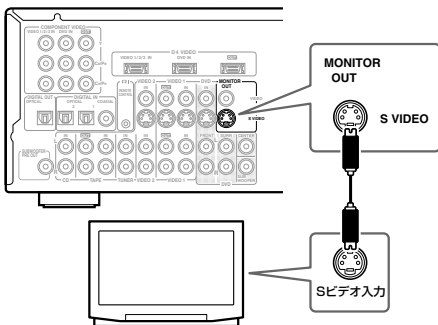
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル（OPTICAL〈オプティカル〉）		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
同軸デジタルケーブル（COAXIAL〈コアキシャル〉）		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル接続コード		FRONT / SURR / CENTER / L / R / SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

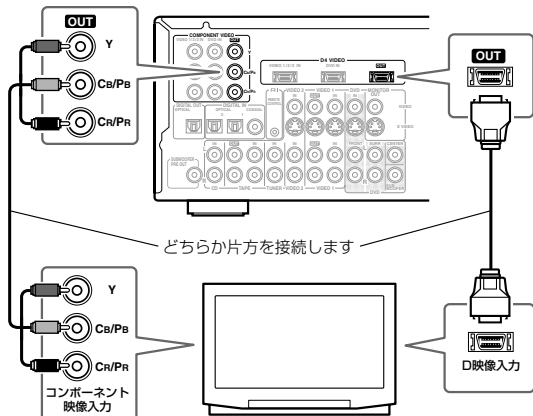
テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

再生機器から入力した映像をテレビなどに映し出すための接続です。再生機器との接続に使用した映像ケーブルと同じ種類のケーブルを使って接続してください。(☞19ページ)

■ビデオ(コンポジット)入力端子と本機を接続する

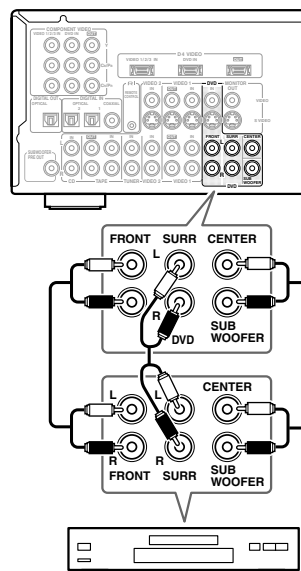
ビデオコードでモニターの映像入力端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

■Sビデオ入力端子がある場合

Sビデオコードでモニターの Sビデオ入力端子と本機の S VIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

■D入力端子やコンポーネント入力端子がある場合

D入力端子がある場合は、D端子用接続コードでモニターのD映像入力端子と本機のD4 VIDEO OUT端子を接続します。コンポーネント入力端子がある場合は、コンポーネントビデオコードでモニターのコンポーネント映像入力端子と本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子を接続します。

DVDプレーヤーの接続(応用)

DVDプレーヤーの接続は、18ページの「DVDをホームシアターで楽しむ」をご覧ください。

■DVDオーディオやスーパーオーディオCD対応の再生機器と接続する

DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合は、マルチチャンネル接続をしてください。
マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。

ご注意

DVDプレーヤーに5.1チャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときはDVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。

映像機器を接続する　映像機器はそれぞれ「映像の接続」と「音声の接続」が必要です。

ビデオデッキの接続

■VHSビデオまたはS-VHSビデオの場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

Sビデオ端子またはビデオ（コンポジット）端子を接続する

SビデオコードでビデオデッキのSビデオ出力端子と本機のS VIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。ビデオ（コンポジット）接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。

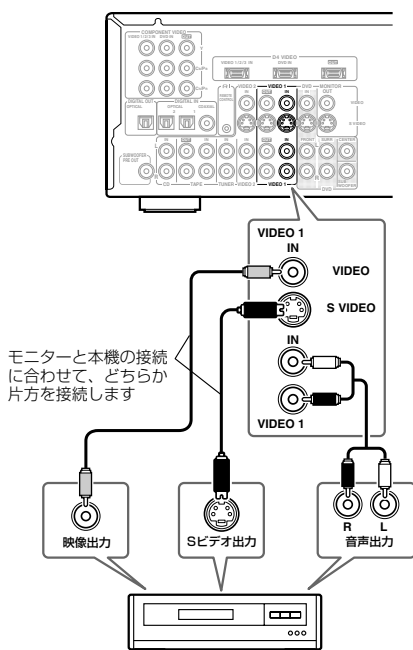
ビデオ（コンポジット）接続の場合は、ビデオコードでビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。

- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。

音声の接続

本機でビデオデッキの音声をお楽しみいただけます。
また、ビデオデッキのチューナーでテレビチャンネルを選ぶと、テレビの音声を楽しむことができます。

アナログ接続

オーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続します。

■D-VHSビデオ（デジタル機能のあるビデオデッキ）の場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

D映像端子またはコンポーネント端子を接続する

D端子接続の場合は、D端子用接続コードでビデオデッキのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

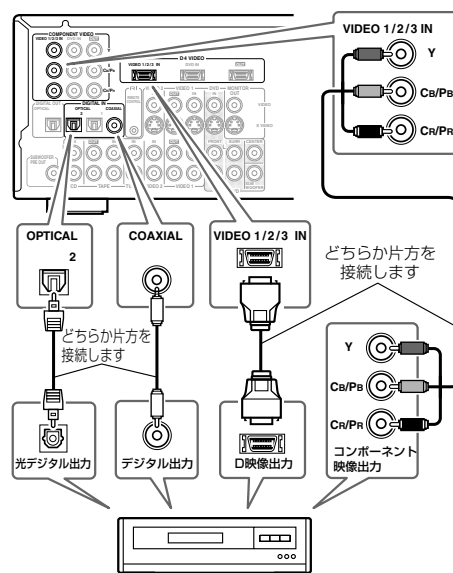
コンポーネント接続の場合は、コンポーネントビデオコードで、ビデオデッキのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

音声の接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

デジタル接続（D-VHSビデオ）

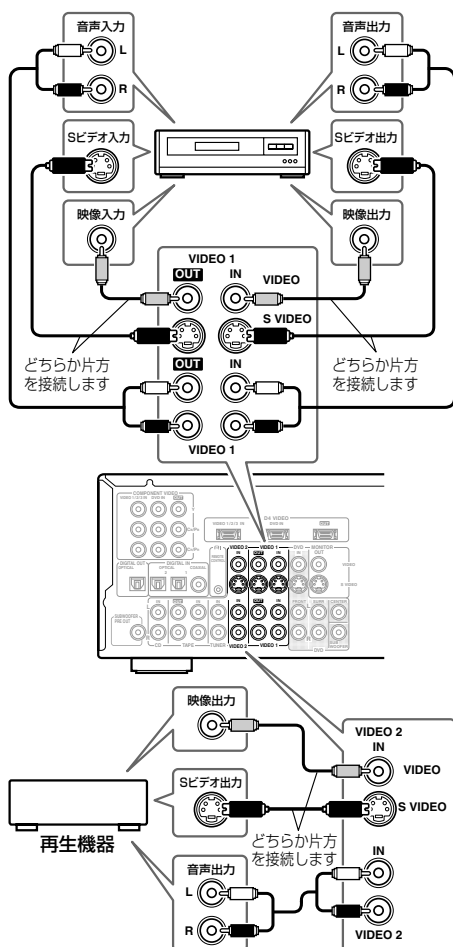
OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、ビデオデッキの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL）2端子を接続します。
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。

■本機を通して録画するには

本機のS VIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのS映像入力端子、または本機のVIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキの映像入力端子を接続します。
オーディオ用ピンコードで本機の音声 VIDEO 1 OUT L/R端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。
テレビなどの再生機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

ご注意

ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子にしか出力されません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキもビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子にしか出力されません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキもS端子接続をしてください。

ご注意

録画をするときは本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態のままでは録画できません。

■本機を通さずに録画するには

テレビなどの再生機器の映像出力端子を直接ビデオデッキの映像入力端子に接続します。
再生機器の音声出力端子も直接ビデオデッキの音声入力端子に接続します。
詳細はお手持ちのビデオデッキや再生機器の取扱説明書をご覧ください。

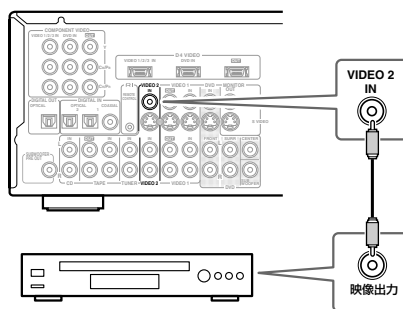
BSチューナー、LDプレーヤーなどの接続

映像の接続

以下のいずれかの接続をします。コンポーネント端子またはD端子の接続をする場合は、本機とモニターもD端子またはコンポーネント端子の接続をしてください。

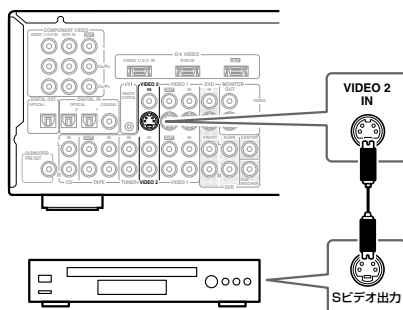
■ビデオ（コンポジット）出力端子がある場合

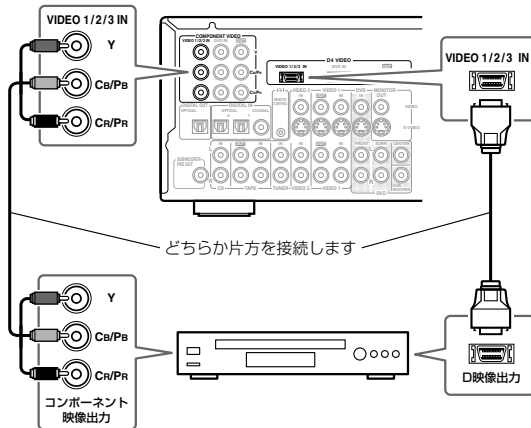
ビデオコードで接続する機器の映像出力端子と本機のVIDEO 2 IN端子を接続します。

- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。

■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のSビデオ出力端子と本機のS VIDEO 2 IN端子を接続します。ビデオ接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。

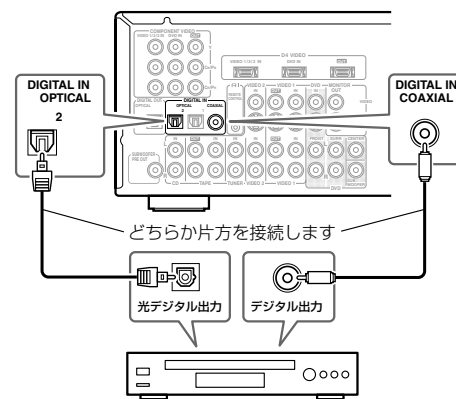
TX-SA502(20-29)(SN29343661)　24　04.3.22, 1:43 PM
ブラック

■D映像出力端子やコンポーネント映像出力端子がある場合

D端子用接続コードで接続する場合、接続機器のD映像出力端子と本機のD4 VIDEO VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。コンポーネントビデオコードで接続する場合、接続機器のコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。
- モニターと本機もD端子またはコンポーネント端子接続のどちらかをする必要があります。

音声の接続

■デジタル接続

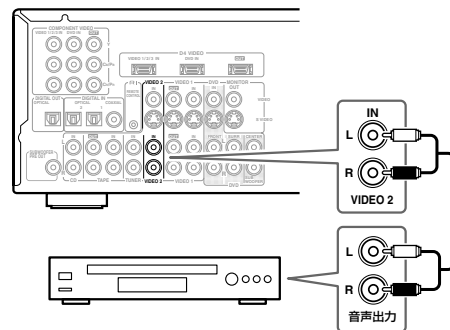
本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。
- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）2端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルで接続する機器のデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞33ページ）

ご注意

本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

■アナログ接続

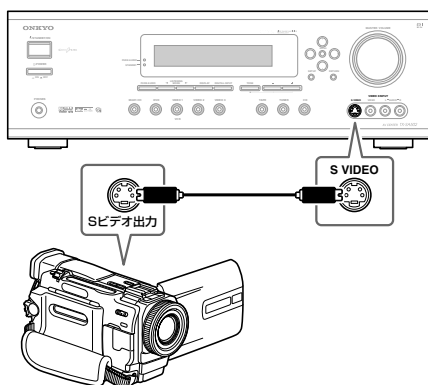
デジタル音声出力端子がない場合や接続する機器の音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機のVIDEO2 IN L/R端子を接続します。

ビデオカメラやテレビゲームの接続

ビデオカメラやテレビゲームを前面パネルの端子に接続できます。

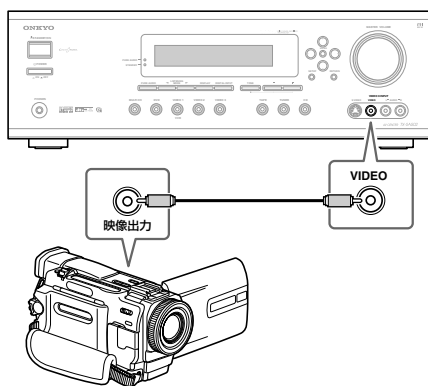
映像の接続

■Sビデオ出力端子がある場合

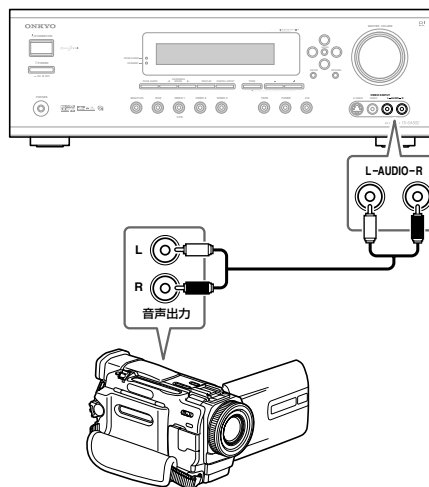
Sビデオコードで接続する機器のSビデオ出力端子と本機前面のVIDEO 3 INPUT S VIDEO端子を接続します。

- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。

■Sビデオ出力端子がない場合

ビデオコードで接続する機器のビデオ（コンポジット）出力端子と本機前面のVIDEO 3 INPUT VIDEO端子を接続します。

- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。

音声の接続

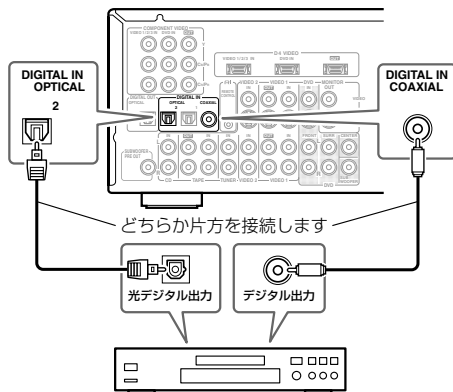
■アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機前面のVIDEO 3 INPUT AUDIO L/R端子を接続します。

オーディオ機器を接続する

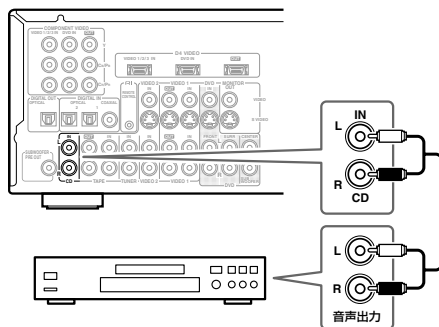
CDプレーヤーを接続する

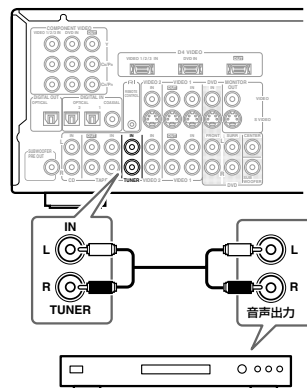
■デジタル接続

OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルでCDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPTICAL）2端子を接続します。
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルでCDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

CDのデジタル入力はあらかじめCOAXIALに設定されています。OPTICAL端子に接続した場合は「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞33ページ）

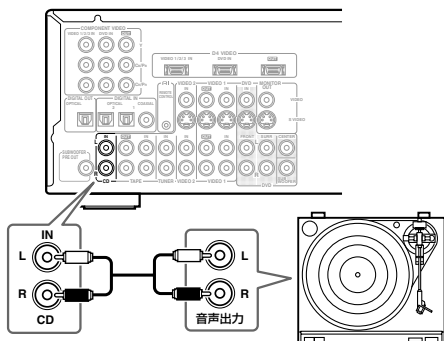
■アナログ接続

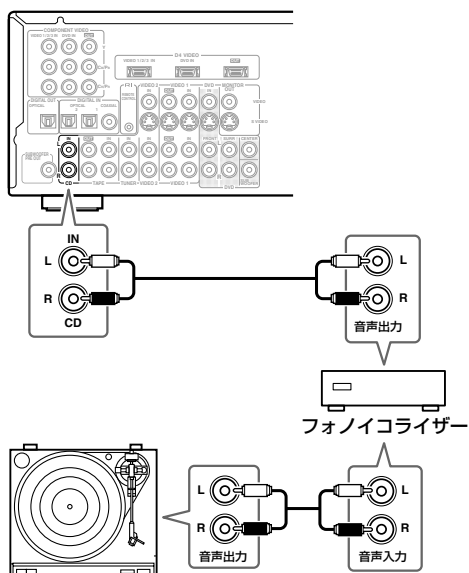
アナログ録音をする場合やオンキヨー製CDプレーヤーで本機とRI連動をさせる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードで、CDプレーヤーの音声出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。

チューナーを接続する

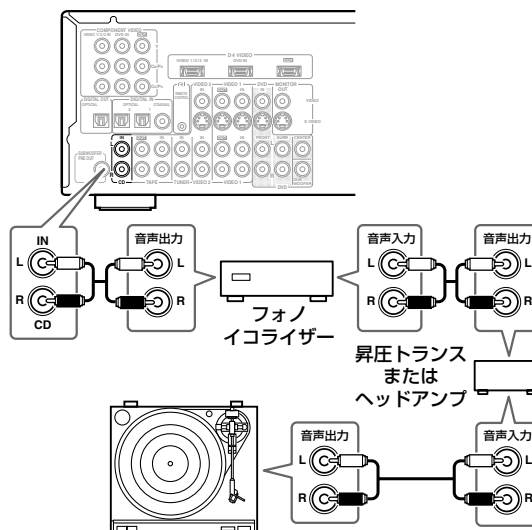
オーディオ用ピンコードで、チューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。

接続をする

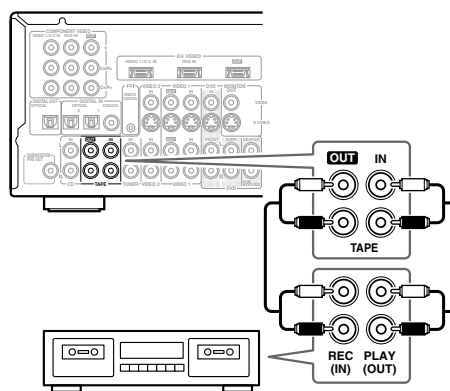
レコードプレーヤーを接続する

■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵の場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーの音声出力端子と空いているAUDIO IN端子を接続します。

■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

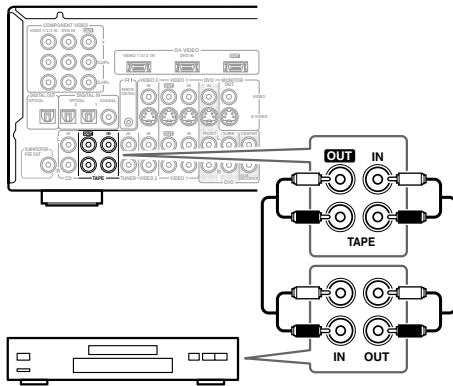
オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているAUDIO IN端子を接続します。

■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

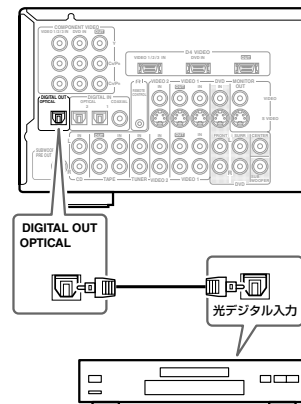
オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。
フォノイコライザーを本機の空いているAUDIO IN端子に接続します。

カセットデッキを接続する

オーディオ用ピンコードでカセットデッキの音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。

MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

カセットデッキの代わりにMDレコーダー、DAT、CDレコーダーなどの録音機器を接続することができます。
オンキヨー製のMDレコーダーやCDレコーダーをRI連動させるときは、34ページの「入力表示を切り換える」で設定する必要があります。

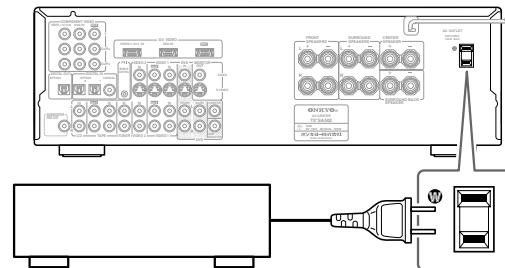
■アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。

■デジタル録音をするには

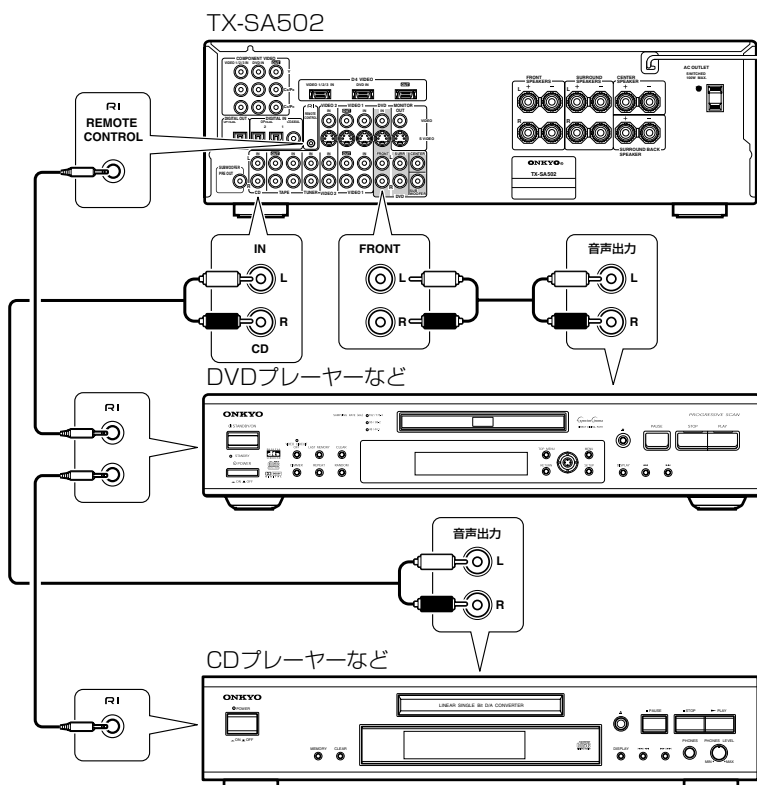
接続する機器にデジタル入力端子がある場合は本機のDIGITAL OUTPUT（OPTICAL）端子に接続するとデジタル録音ができます。
デジタル録音ができる音声信号はDIGITAL IN端子に入力された信号のみです。

他機の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLET）

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。
スタンバイ状態のときに本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓦ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

接続をする

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。18〜29ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLET）に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH（マルチチャンネル）ボタンを押す必要があります。（☞39ページ）

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。（MDレコーダーの操作はできません。）

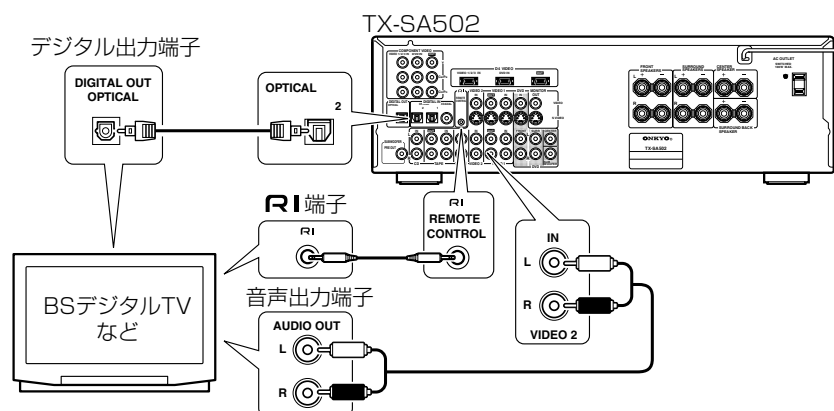
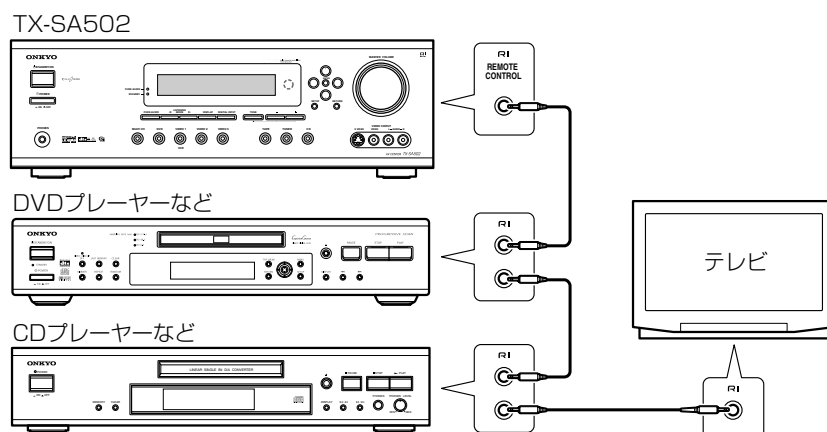
ご注意

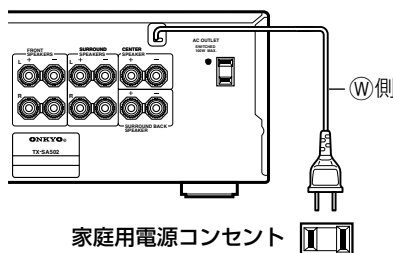
- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。

RI オーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。
③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。
連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

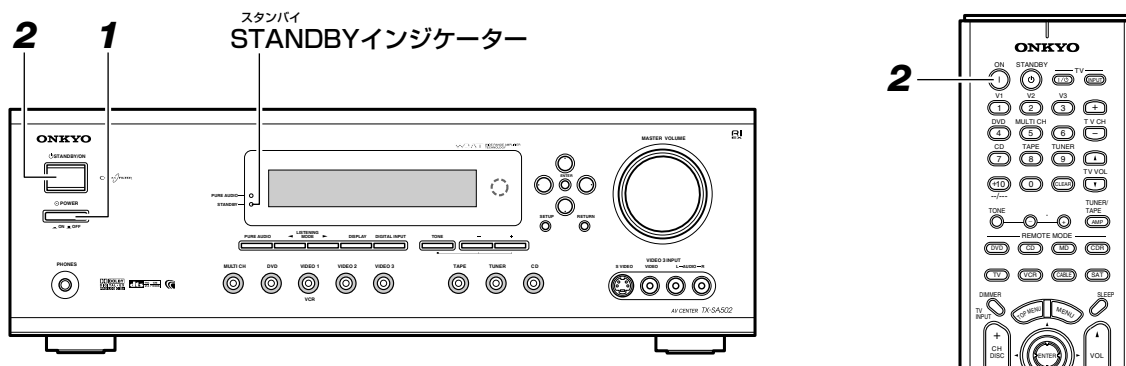
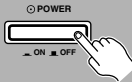
- 本機のVIDEO（ビデオ）2音声入力（VIDEO 2 IN L/R）端子を接続する
- モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） INPUT（インプット） OPTICAL（オプティカル） 2端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続をする

電源コードを接続する

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

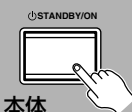
よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線（↑W↑）側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

POWER スイッチを押して、主電源を入れる

STANDBYインジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

※お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON」の状態になっていますので、電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

2

本体

または

リモコン

本体の STANDBY/ON ボタン、またはリモコンの ON ボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタンやMULTI CHボタンを押しても電源を入れることができます。

スタンバイ状態に戻すには

本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのSTANDBYボタンを押します。

初期設定をする

入力の設定をする

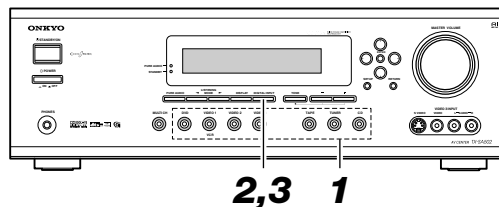
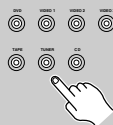
デジタル入力端子の設定

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－－」にする必要があります。

機器	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT1（オプティカル1）
VIDEO 1	－－－－（アナログ）
VIDEO 2	OPT2（オプティカル2）
VIDEO 3	－－－－（アナログ）
TAPE	－－－－（アナログ）
TUNER	－－－－（アナログ）
CD	COAX（コアキシャル）

例：**本機後面のOPTICAL 2端子にCDプレーヤーを接続した場合**
CDのデジタル入力端子の初期設定はCOAXのため、「OPT2」に設定を変更する必要があります。

DVDプレーヤーと本機後面のDVD INアナログ端子のみで接続した場合
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「－－－－」に設定を変更する必要があります。

1 入力切換ボタンを押して、変更したい機器を選ぶ

2 DIGITAL INPUTボタンを押す

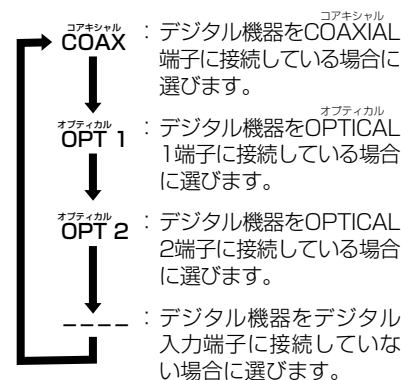
現在の設定が表示されます。

3 DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、接続した端子を表示させる

CD :OPT2

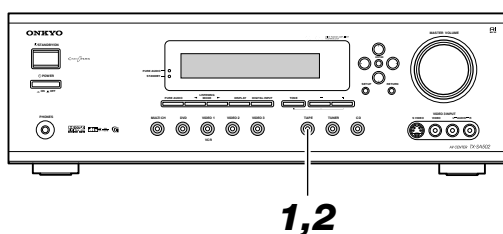
本機後面のOPTICAL 2端子にCDプレーヤーを接続した場合

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

COAX：デジタル機器をCOAXIAL端子に接続している場合に選びます。
↓
OPT 1：デジタル機器をOPTICAL 1端子に接続している場合に選びます。
↓
OPT 2：デジタル機器をOPTICAL 2端子に接続している場合に選びます。
↓
－－－－：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。

約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

初期設定をする

入力表示を切り換える（TAPE/MD/CDR）

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、リモコン操作やダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1 入力切換ボタンの「TAPE」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2 TAPEボタンを約2秒押し続けて、表示を切り換える

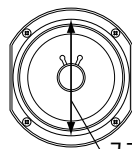
MD

CDR

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「TAPE」と表示が切り換わります。

スピーカーの設定をする

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

1 リモコンのAMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「1. SP Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

「Subwoofer」の設定が表示されます。

```
Subwoofer:Yes
```

3

◀/▶ボタンを押して、サブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合
No：サブウーファーを接続していない場合

4

▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**3**で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は表示されません。

5

▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6

▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4**で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順**6**で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。
- 手順**6**で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8

SETUPボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタンでも操作することができます。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカーの音量レベルを調整する（テストトーン）

各スピーカーからのテスト音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネル再生時は、設定できません。

1

リモコンのAMPボタンを押してから、TEST TONEボタンを押す

左フロントスピーカーから「ザー」というテストトーンが出力されます。

2

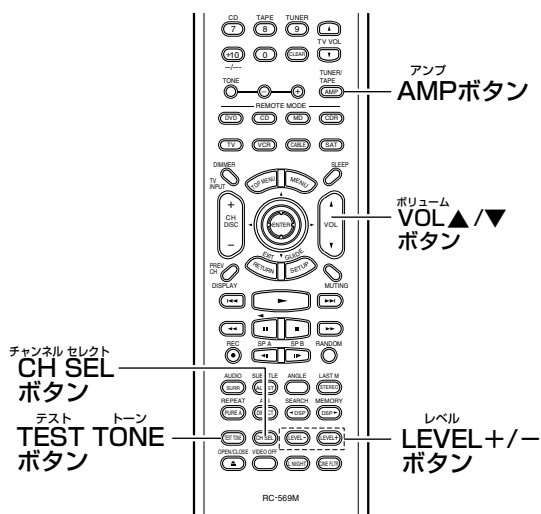
VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

テストトーンは小さめなので良く聞こえる音量にVOL▲/▼ボタンで調整してください。

3

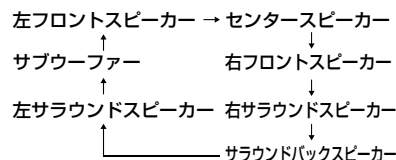
CH SELボタンでスピーカーを切り換え、LEVEL＋/－ボタンでテストトーンを調整する

すべてのスピーカーのテストトーンが同じに聞こえるように調整します。

- スピーカーは－12dB～＋12dB、サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲内で調整できます。

4

手順*3*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテストトーンを調整する

テストトーンは次の順で出力されます。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

- 「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは設定できません。

5

TEST TONEボタンを押す

設定が終了します。

ご注意

手順*2*でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、VOL▼ボタンで音量を戻してください。

SETUPボタンを使って設定することもできます。

本体のSETUPボタンを押し、▲/▼ボタンで「3. Level Cal」を選び、ENTERボタンを押します。
テストトーンが出力されますので、◀/▶ボタンで調整してください。
次のスピーカーに切り換えるには▼ボタンを押します。

スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンのAMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で「No」または「None」を選択したスピーカーは調整できません。

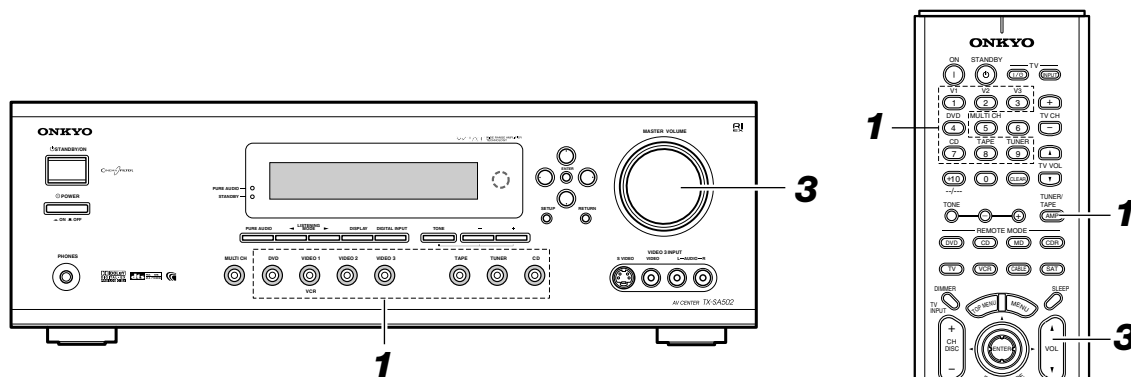
2

LEVEL＋/－ボタンを押して、音量を調整する

スピーカーは－12ｄB～＋12ｄB、サブウーファーは－15ｄB～＋12ｄBの範囲で調整できます。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

演奏する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してから入力切換ボタンを押します。

！ヒント

リモコンのV1、V2、V3ボタンは、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3を表しています。

2

選んだ機器の演奏を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

MASTER VOLUME
または
VOL
本体
リモコン

本体のMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin・1・2‥‥78・79・Maxまでの範囲で調整できます。

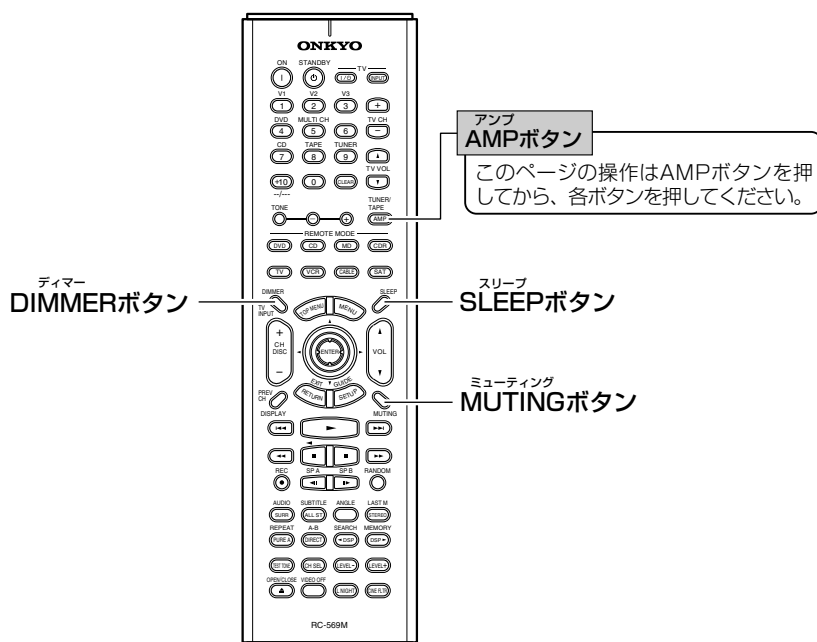
！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは42ページをご覧ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

一時的に音量を小さくする

リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）ボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

リモコンのSLEEP（スリープ）ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

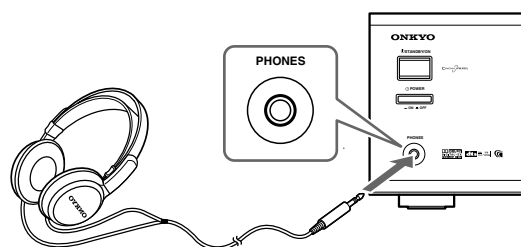
表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

リモコンのDIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう →

ヘッドホンで聞く

PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio（ピュア オーディオ）」または「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になり、ヘッドホンのプラグを抜くと元のリスニングモードに戻ります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。22ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

マルチチャンネル再生をする

1

TUNER/TAPE AMP
MULTI CH 5

AMP（アンプ）ボタンを押してからMULTI（マルチ） CH（チャンネル）ボタンを押して、「MULTI（マルチチャンネル）」を表示させる

MULTI

2

DVDプレーヤーを再生する

3

VOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみでも操作できます。

ご注意

「Multich」を選んでいるときは、Direct（ダイレクト）とPure（ピュア） Audio（オーディオ）のリスニングモードを選ぶことができます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調整する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。

1

TUNER/TAPE AMP
CH SEL

AMPボタンを押してからCH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー →センタースピーカー
↑ ↓
サブウーファー 右フロントスピーカー
↑ ↓
左サラウンドスピーカー ←右サラウンドスピーカー

2

LEVEL（レベル）＋/－ボタンを押して、音量を調整する

－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

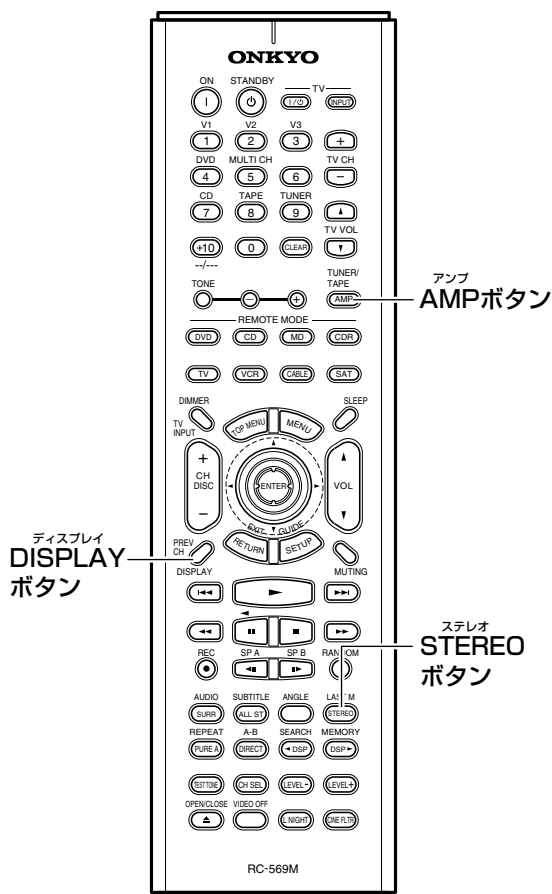
- サブウーファーは－15ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、36ページのテストトーンで設定するスピーカーレベルとは異なります。マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

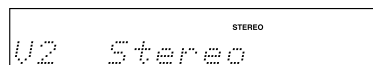
表示を確認する

1

AMPボタンを押してから、DISPLAYボタンを押す

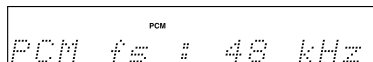
- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

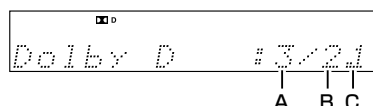
● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
V2　Stereo

● 入力信号がPCMのとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数*1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数*1 →

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット*1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット*1,2 →

*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

*2 フォーマット表示の意味

A :入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B :入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C :入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

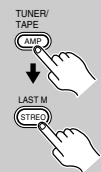
たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

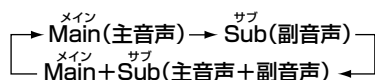
→ 入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと選択音声 → 入力信号と音声の数 →

主音声と副音声を切り換える

AAC信号の音声多重放送が入力されているとき、主音声と副音声を切り換えることができます。
DISPLAYボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

1

AMPボタンを押してから、STEREOボタンを押す

STEREOボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

→ Main（主音声）→ Sub（副音声）→ Main＋Sub（主音声＋副音声）→

MAIN：音声多重放送で、左右スピーカーから主音声が出力されます。
SUB：音声多重放送で、左右スピーカーから副音声が出力されます。
MAIN＋SUB：音声多重放送で、左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声が出力されます。

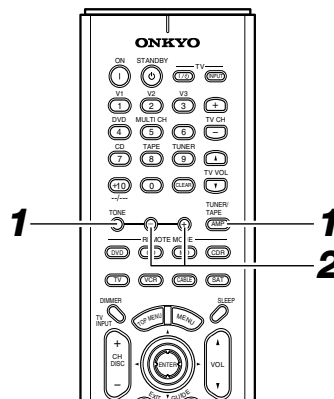
！ヒント

本体のLISTENING MODEボタンでも操作することができます。

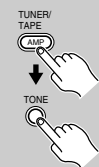
ご注意

- PCMの音声多重信号は、本機での主音声・副音声の切り換えができませんので、再生機器側で切り換えてください。
  また、再生機器側で主音声・副音声を切り換えても、デジタル出力には反映されない場合があります。この場合、本機とアナログ接続をしてから、再生機器側で音声の切り換えを行ってください。
- BSデジタルチューナーや地上デジタルチューナーでAACの音声多重信号を受信しているのに、本機で主音声・副音声の切り換えができないとき、チューナー側のデジタル出力設定がPCM出力になっている場合があります。このような場合は、チューナー側で設定を変更してください。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「ダイレクト」、「ピュアオーディオ」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

- DVDのマルチチャンネル入力を再生している場合は、AMPボタンを押してからSURRボタンを押して「Tone On」と表示させると、トーンコントロール機能が働くようになります。

MLT Tone On

1

AMPボタンを押してからTONEボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2

＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、－12dB～＋12dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

！ヒント

本体のTONEボタン、＋/－ボタンでも操作できます。

■ トーンコントロール機能を解除するには

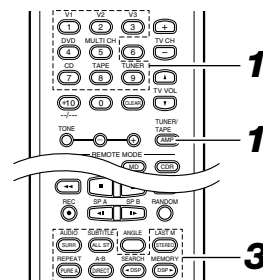
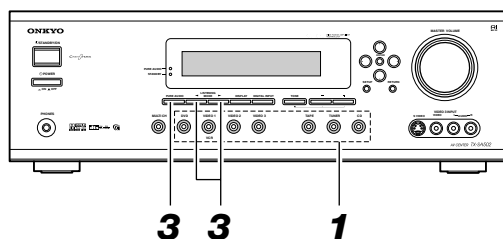
または

DIRECTボタンまたはPURE Aボタンを押す

トーンコントロール機能が解除されます。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを使う

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

または

LISTENING MODE◀/▶ボタンまたはPURE AUDIOボタンでリスニングモードを選ぶ

PURE AUDIO：
リスニングモードを「ピュアオーディオ」に切り換えます。ピュアオーディオインジケーターが点灯します。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。
46ページのDolby Digital/DTS/AACの設定によって対応するリスニングモードが変わります。

リモコンで選ぶ

1

AMPボタンを押してから入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ

PURE A：
リスニングモードを「ピュアオーディオ」に切り換えます。ピュアオーディオインジケーターが点灯します。

DIRECT：
リスニングモードを「ダイレクト」に切り換えます。

STEREO：
リスニングモードを「ステレオ」に切り換えます。 AACの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。

SURR：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。46ページのDolby Digital/DTS/AACの設定によってリスニングモードが変わります。マルチチャンネル入力のときは、「Tone On」に設定することができます。

DSP◀/▶：
オンキヨー独自のリスニングモードの中から選びます。

ALL ST：
リスニングモードを「オールチャンネルステレオ」に切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

入力信号の種類	PCM または アナログ	PCM	Dolby Digital			DTS				AAC		
		96kHz	3/2.1 3/3.1など	2/0 (ステレオ)	その他	3/2.1	2/0 (ステレオ)	*5 96/24	DTS-ES	*\/2	2/0	その他
主なソース / リスニングモード	カセット/CD ビデオ/ラジオ テレビ、LD	DVD 96k/24bit など	DVDビデオなど			DVDビデオ、LD、CDなど				BSデジタル放送など		
PureAudio	○	○										
Direct	○	○										
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PLII Movie/Music/ Game *1	○			○			○				○	
PLIIx Movie/Game*2	○			○			○				○	
PLIIx Music*2	○		○*3	○		○*3	○	○*3		○*3	○	
Neo: 6 Cinema/Music	○											
Dolby Digital			○		○							
Dolby Digital EX *4			○									
DTS						○			○			
DTS 96/24								○				
DTS-ES Discrete *4									Discrete			
DTS-ES Matrix *4									Matrix			
DTS+Neo:6 *3						○		○				
DTS+Dolby EX *3						○		○				
AAC										○		○
AAC+Dolby EX *3										○		
オンキヨー独自のDSP Orchestra	○											
Unplugged	○											
Studio-Mix	○											
TV Logic	○											
All ch Stereo	○											

*１ : Surround Back SpeakerがNoneに設定されているとき（34ページ）に選択できます。
*２ : Surround Back SpeakerがNone以外に設定されているとき（34ページ）に選択できます。
*３ : Surround Back SpeakerがNone以外に設定されていて（34ページ）、「Dolby Digital/DTS/AACの設定をする」（46ページ）がOnに設定されているときに選択できます。
*４ : Surround Back SpeakerがNone以外に設定されていて（34ページ）、「Dolby Digital/DTS/AACの設定をする」（46ページ）がOnもしくはAutoに設定されているときに選択できます。
*５ : DTSの96kHz24bit対応の信号を再生する場合、リスニングモードがステレオまたはDTS96/24のときは96kHzとして、それ以外のリスニングモードを選んだときはDTSの48kHzとして処理されます。

！ヒント

入力信号の種類は、DISPLAYボタンを押して表示部で確認することができます。（☞40ページ）

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞18～29ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードは、それらの信号が入力されたときのみ選ぶことができます。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

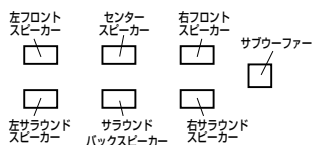
TX-SA502(39-46)(SN29343661) 43 04.3.22, 1:46 PM
ブラック

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー　センタースピーカー　右フロントスピーカー　サブウーファー
左サラウンドスピーカー　サラウンドバックスピーカー　右サラウンドスピーカー

Pure Audio（ピュア オーディオ）

Direct（ダイレクト）モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Direct（ダイレクト）

左右フロントスピーカーからのみ出力されます。もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）

2チャンネルで収録されたソースを5.1チャンネルで再生するモードです。映画に最適なMovie（ムービー）モード、音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードとゲームに最適なGame（ゲーム）モードの3つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲーム機の音声から立体感のある音場を作り出します。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）

PCM96kHz以外の2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。Movieモードでは、DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。MusicモードではCDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDに適しています。また、Musicモードでは5.1チャンネルで収録された音楽を6.1チャンネルで再生することができます。Gameモードでは、ステレオ入力されたゲームなどに適しています。

Neo:6（ネオ）

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX（ドルビー デジタル）

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。dts DIGITAL SURROUND マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete 6.1（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。

追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix 6.1
DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。
dts ES マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Neo:6
DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをNeo:6技術を使って6.1チャンネルで再生します。dtsマークやdts 96/24マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS ＋ Dolby EX
DTSの5.1チャンネルで収録されたソースをDolby EX技術を使って6.1チャンネルで再生します。
dtsマークや dts 96/24マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

AAC
MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

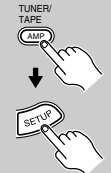
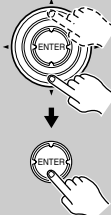
AAC ＋ Dolby EX
MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

■オンキヨー独自のリスニングモード（DSP）
アナログ信号やCDなどのPCM信号を再生しているときに楽しむことができます。

Orchestra
クラシックやオペラに適したモードです。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo
BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのチャンネルでステレオ再生しますので迫力ある音場をお楽しみ頂けます。

Dolby Digital/DTS/AACの設定をする（サラウンドバックスピーカーを使用しているときの設定）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソース/DTSソース/AACソースを6.1チャンネル再生するか5.1チャンネル再生するかを設定することができます。この設定は、それらのソースを再生しているときしか設定できません。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「4. Audio Adjust」を表示させ、ENTERボタンを押す

3

Dolby Digitalソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（DolbyD）」を表示させます。

DTSソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（DTS）」を表示させます。

AACソースを再生しているとき

▲/▼ボタンを押して「SB（AAC）」を表示させます。

4

◀/▶ボタンを押して、設定を選ぶ

5

SETUPボタンを押す

設定が終了します。

Dolby Digital/Dolby Digital EX

On：ドルビーデジタルの識別信号の有無にかかわらず、6.1チャンネル再生をします。
リスニングモードは、Dolby Digital EXとPLIIx Musicを選ぶことができます。

Off：ドルビーデジタルの識別信号があるディスクでもDolby Digital（5.1チャンネル）再生を行います。

Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
ドルビーデジタルの識別信号がないときは、Dolby Digital（5.1チャンネル）再生をします。

ご注意

再生する信号にサラウンドチャンネルの情報がない、またはモノラルのときは、上記の設定をしてもDolby Digital（5.1チャンネル）再生になります。

DTS/DTS-ES Discrete/DTS-ES Matrix

Auto：dts ESがあるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。

On：dts ESの有無にかかわらず、6.1チャンネルを再生をします。dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に自動的に切り換わります。
dts ESがない場合は、DTS＋Neo:6、DTS＋Dolby EXまたはPLIIx Musicに切り換えることができます。

Off：dts ESがあるディスクでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

AAC/AAC＋ Dolby EX

Off：AACソースを5.1チャンネル再生（AAC）します。

On：AACソースを6.1チャンネル再生（AAC＋Dolby EX）します。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどは録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL INPUT（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUTPUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- 録音·録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音·録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS信号をノイズとして録音・録画することになりますので、DTS対応のCDやLDをアナログ録音しないでください。
- VIDEO 1 IN端子に入力された画像や音声は、VIDEO 1 OUT端子に出力されません。同様にTAPE IN端子に入力された音声は、TAPE OUT端子に出力されません。これは、出力と入力にループができて機器が故障するのを防ぐためです。

再生しながら録音·録画する

現在再生中の音楽や映画を録音·録画します。

1 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音・録画を始める

手順***1*** で選んだ再生機器を演奏します。

異なるソースの音楽と映像を録音·録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録音·録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

例： VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

2 VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「VIDEO 3」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順***3*** で選んだVIDEO 3のまま変わりません。VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

ご注意

録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

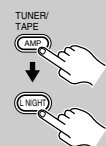
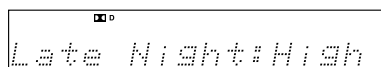
設定をする（音響効果編）

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してから、L NIGHT（レイト ナイト）ボタンを（くり返し）押す

Late Night:High

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

！ヒント

オーディオアジャストメニューから設定することもできます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビー プロ ロジックII ムービー、ドルビー プロ ロジックIIx ムービー、DTS、DTS-ES、DTS+Neo:6、DTS Neo:6 シネマ、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EXの場合に働きます。

1

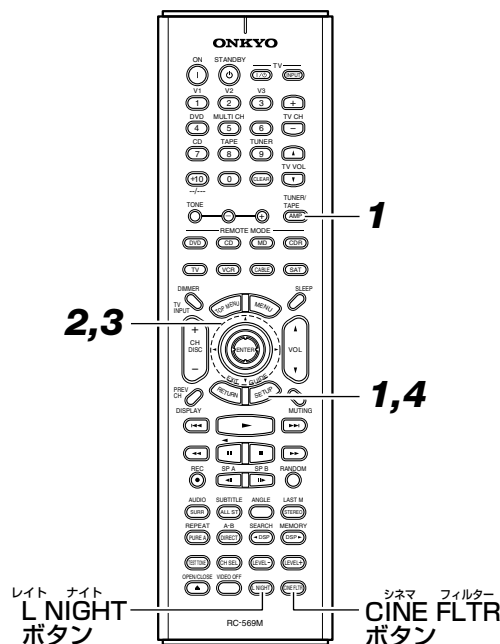
リモコンのAMPボタンを押してから、CINE FLTR（シネマ フィルター）ボタンを（くり返し）押す

On（オン）：高音域の補正をします。
Off（オフ）：シネマフィルター機能をオフにします。

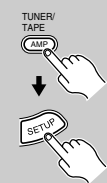
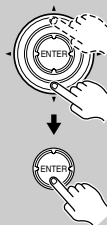
！ヒント

オーディオアジャストメニューから設定することもできます。

音響効果の設定をする（Audio Adjust（オーディオ アジャスト）メニュー）

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定することができます。設定するリスニングモードにしてから、音質の調整を行ってください。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから、SETUP（セットアップ）ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「4. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

4.Audio Adjust

3

▲/▼ボタンで設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

- 表示されるAudio Adjustメニューは、リスニングモードによって異なります。

4

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

Mono（モノ）/2ch（チャンネル）/96kHz信号再生時の重低音を調整する

Double Bass（ダブル バス）

「1. SP Config（スピーカー コンフィグ）（スピーカー環境）設定」（☞34ページ）でサブウーファーを「Yes（イエス）（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large（ラージ）」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。モノラル信号、2チャンネル信号、96kHz信号入力時に効果があります。

On（オン）：サブウーファーを強調します。
Off（オフ）：サブウーファーを強調しません。

Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）のレイトナイト機能を使う

Late Night（レイト ナイト）

48ページと同じ設定です。

フロントスピーカーからの高音域を調整する

Cinema Filter（シネマ フィルター）

48ページと同じ設定です。

DTS Neo（ネオ）:6 Music（ミュージック）時の音質を調整する

Center Image（センター イメージ）

「DTS Neo:6 Music（ミュージック）」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「3」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

!ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby（ドルビー） Pro（プロ） Logic（ロジック） II Music（ミュージック）/Dolby Pro Logic IIx Music時の音質を調整する

ご注意

Dolby Pro Logic IIx Musicで5.1チャンネル収録されたソースを6.1チャンネル再生するときは、これらの設定はできません。

Panorama（パノラマ）

前方の音場を横方向まで広げることができます。
初期設定は「Off（オフ）」に設定されています。

On（オン）：パノラマ効果をオンにします。
Off（オフ）：パノラマ効果をオフにします。

Dimension（ディメンション）

音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「3」に設定されています。

!ヒント

- 「3」を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。 逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width（センター ウイズス）

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

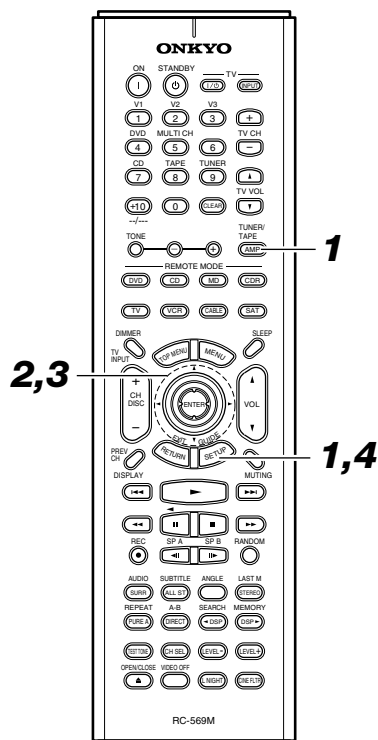
設定をする（応用編）

スピーカーの設定をする（応用編）

低音域の管理設定をする（クロスオーバー）

各スピーカーから出る低音のバランスを良くするために、スピーカーの大きさにあわせて低音域の設定をします。
目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーが無い場合は「1.SP Config（スピーカー環境）」（☞34ページ）で最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	60
16～20cm	80
13～16cm	100（初期設定）
9～13cm	120
9 cm 以下	150

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1 AMPボタンを押してから、SETUPボタンを押す

2 ▲/▼ボタンを押して「1. SP Config（スピーカー環境）」を選び、ENTERボタンを押す

1.SP Config

3 ▲/▼ボタンを押して「Crossover」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

4 SETUPボタンを押す

設定が終わったら、SETUPボタンを押します。

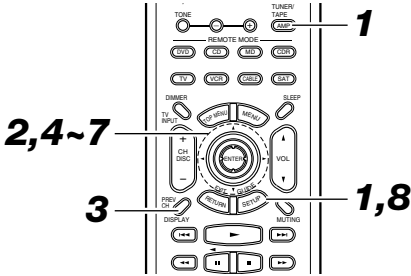
！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタンでも操作することができます。

TX-SA502(47-52)(SN29343661) 50 04.3.22, 1:47 PM
ブラック

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（スピーカーディスタンス）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。スタンバイ状態にしても記憶しています。
マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1

AMPボタンを押してからSETUPボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「2. SP Distance」を選び、ENTERボタンを押す

```
2.SP Distance
```

3

DISPLAYボタンを押して、設定する単位を切り換える

m：距離をメートルで設定する。0.3m単位で9mまで設定できます。
ft：距離をフィートで設定する。1ft単位で30ftまで設定できます。

4

◀/▶ボタンで「Front」の距離を設定する

左右フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

5

▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

！ヒント

フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。

6

▼ボタンを押して「Surr Right」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

この手順をくり返し、「サラウンドバックスピーカー」「左サラウンドスピーカー」もそれぞれ視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

フロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

7

▼ボタンを押して「Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

！ヒント

フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。

8

SETUPボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了します。

！ヒント

本体のSETUPボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTERボタンでも操作することができます。

ご注意

「1. SP Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、表示されません。

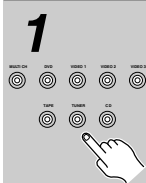
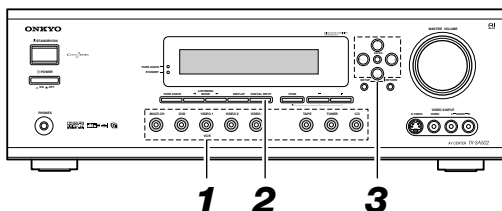
音声入力の設定をする

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

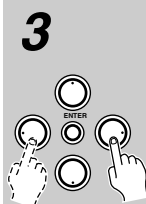
「デジタル入力端子の設定（☞33ページ）」でデジタル入力を割り当てた機器は、デジタル信号を優先して再生します。DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、以下の設定をおすすめします。

1

本体の入力切換ボタンで設定する機器を選ぶ

2

本体のDIGITAL INPUT（デジタル インプット）ボタンを約3秒押し続ける

現在のデジタル入力モード「Auto（オート）」が表示されます。

3

「Auto（オート）」表示中（約3秒間）に◀/▶ボタンでデジタル入力モードを選ぶ

デジタル入力モードがDTSやPCMに固定されているときは、それぞれのインジケーターが表示部に点滅します。

Auto（オート）（初期設定）：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

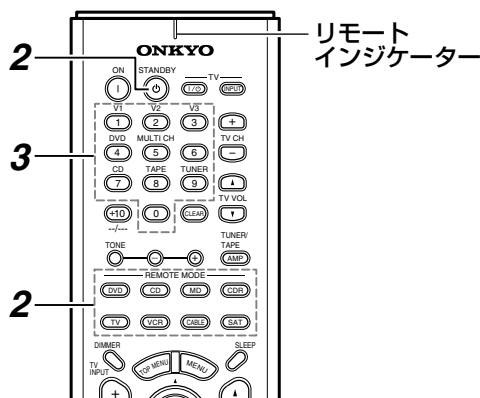
ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-569M）で、他社の製品を操作することができます。操作するには、**他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する必要があります。**

リモコンコードを登録する

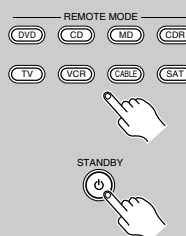
他機のリモコンコードを本機のリモコンの「REMOTE MODEボタン」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
リモコンコード表は、56ページをご覧ください。
「DVD」、「TV」、「VCR」、「CABLE」、「SAT」には、それぞれのカテゴリーから選んだリモコンコードが登録できます。「CD」、「MD」、「CDR」には、どのカテゴリーのコードでも登録することができます。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは…
次の2種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて選択してください。

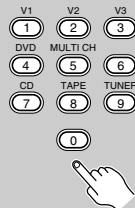
5001 ：オーディオ用ピンコードとRIケーブルの両方を接続している場合に使用します。初期設定は「5001」になっていますのでRI接続している場合はこのままご使用ください。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作します。

5002 ：接続しているDVDプレーヤーにRI端子がついていない、またはRIケーブルを接続していない場合に使用します。

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を56ページのリモコンコード表で確かめる

2

登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、STANDBYボタンを押す

3

リモートインジケーターが点滅し終わってから30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

4

他機を操作する

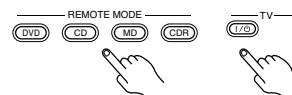
登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

「DVD」、「CD」、「MD」、「CDR」ボタンの初期設定の戻しかた

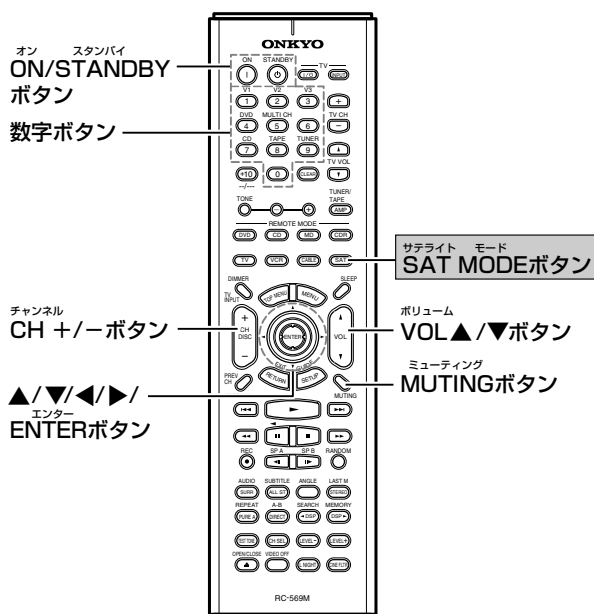
「DVD」、「CD」、「MD」、「CDR」ボタンには、初期設定としてオンキヨー機器のコードが入力されています。それらの初期設定に戻すときは、以下の操作をしてください。

1. 初期設定に戻したいMODEボタンを押しながら、TV(I/⏻)ボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度そのMODEボタンを押すと、初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定に戻すには

お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMPボタンを押しながら、STANDBYボタンを押します。
2. リモートインジケーターが点滅し終わってから、もう一度AMPボタンを押すと、初期設定に戻ります。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

BSチューナーを操作する

ご注意

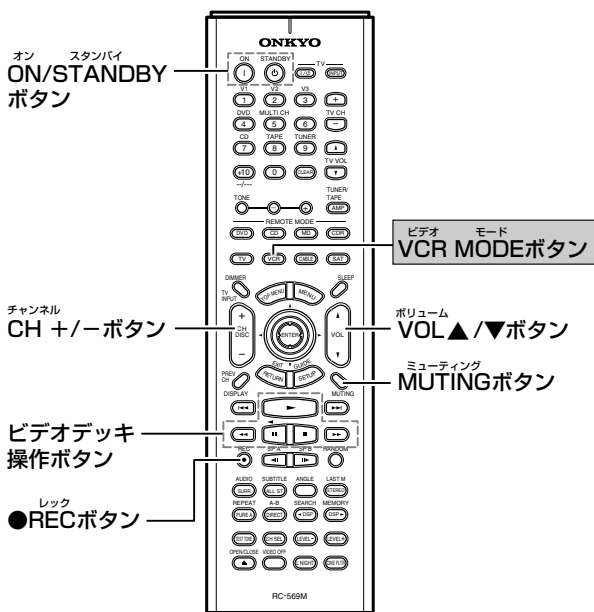
リモコン送信部をBSチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1. **SAT MODEボタンを押す**
   または、BSチューナーを登録したリモコンモードボタンを押す

2. **各操作ボタンを押す**
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：BSチューナーの電源ON/OFF
CH +/−	：プリセット局の選局
▲▼◀ ▶	：カーソル移動
ENTER	：決定
0、1〜9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

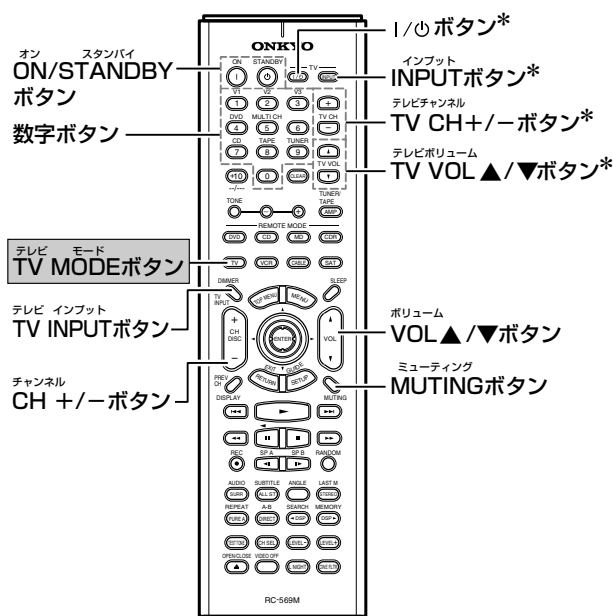
VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
MUTING	： 本機のミューティング

ビデオデッキを操作する

1. **VCR MODEボタンを押す**
   または、ビデオデッキを登録したリモコンモードボタンを押す

2. **各操作ボタンを押す**
   ON/STANDBY：ビデオデッキの電源ON/OFF
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

CH +/−	： プリセット局の選局
▶	：再生
■	：停止
◀◀	：巻戻し
▶▶	：早送り
II	：一時停止
●REC	： 録音

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
MUTING	： 本機のミューティング

テレビを操作する

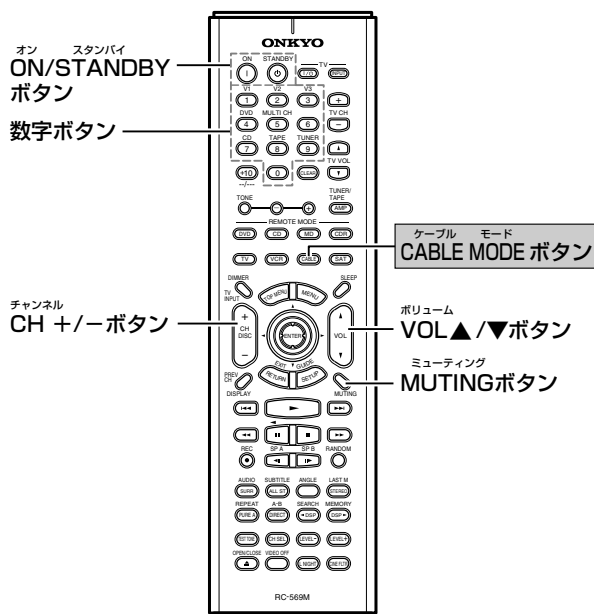
1. TV MODEボタンを押す
   または、テレビを登録したリモコンモードボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：テレビの電源ON/OFF
TV INPUT	：テレビの入力切換
0,1〜9	：数字ボタン
VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
MUTING	：テレビのミューティング
CH +/−	：チャンネル選択

＊のついたボタンは、どんなリモコンモードでもTV MODEボタンに登録したテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
TV CH +/−	：チャンネル選択
I/⏻	：TVの電源を入/切
INPUT	：テレビの入力切換

ケーブルテレビを操作する

1. CABLE MODEボタンを押す
   または、ケーブルテレビを登録したリモコンモードボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON/STANDBY	：ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH +/−	：プリセットチャンネルの選局
0,1〜9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
MUTING	：本機のミューティング

接続した製品を本機のリモコンで操作する

リモコンコード表　*複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。*

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
アイワ	5010
インテグラ	5001, 5002
インテグラリサーチ	5001, 5002
Apex	5015, 5016
デノン	5017, 5020
日立	5009
日本ビクター（JVC）	5023
ケンウッド	5017
マグナボックス	5004, 5021
マランツ	5025, 5026
三菱	5005
オンキヨー	5001, 5002
パナソニック	5011, 5017, 5020
フィリップス	5004, 5021, 5028
パイオニア	5006
プロスキャン	5003
RCA	5003
サンヨー	5012
ソニー	5007, 5013, 5018, 5029
トムソン	5022, 5024
東芝	5008, 5021
ヤマハ	5020
Xbox	5022

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
日立	4036, 4037
日本ビクター(JVC)	4009, 4021
パナソニック	4006, 4031
フィリップス	4021, 4029
プロスキャン	4001, 4002
RCA	4001, 4002
サムスン	4017
ソニー	4005, 4031
トムソン	4024, 4025
東芝	4004

CBL（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
日立	3002
Magnavox	3014
NEC	3003
パナソニック	3020
フィリップス	3007, 3008, 3014
パイオニア	3017, 3024
プロスキャン	3001, 3002
RCA	3004, 3020, 3022
サムスン	3017

- 機器によっては、動作が異なる場合があります。
- 製品によっては、動作しない場合もあります。

VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
アイワ	2012, 2046, 2047
フナイ	2012
日立	2013, 2021, 2025, 2028 2037, 2038, 2043
日本ビクター（JVC）	2005, 2006, 2007, 2009 2032, 2035, 2040, 2048
三菱	2013, 2022, 2032, 2034
NEC	2005, 2006, 2007, 2009 2032
Orion	2028, 2041, 2045, 2046 2047
パナソニック	2010, 2011, 2042
フィリップス	2010, 2014, 2017, 2034 2048
パイオニア	2006, 2013, 2032, 2034
サムスン	2008, 2043, 2049
サンヨー	2007, 2008, 2030, 2036
シャープ	2016, 2017, 2031
ソニー	2004, 2018, 2024
東芝	2013, 2015, 2022, 2034 2048

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
富士通ゼネラル	1070
フナイ	1009, 1045, 1048, 1070
日立	1004, 1006, 1007, 1013 1027, 1038, 1062, 1063 1069
日本ビクター（JVC）	1007, 1012, 1013, 1015 1033
三菱	1004, 1005, 1006, 1008 1040, 1055, 1058
NEC	1003, 1004, 1005,1006
Orion	1029, 1043, 1048, 1049 1050, 1067, 1068
パナソニック	1003, 1012, 1014, 1031 1044, 1046, 1051, 1061 1062, 1069
フィリップス	1003, 1004, 1007, 1008 1014, 1018, 1019, 1020 1037, 1038, 1040, 1053 1059, 1060
パイオニア	1004, 1006, 1027, 1062
サムスン	1004, 1005, 1006,1007 1008, 1022, 1025, 1035 1045, 1047, 1052, 1056 1060, 1063, 1065
サンヨー	1004, 1010, 1017
シャープ	1004, 1006, 1007, 1021 1023, 1025, 1026
ソニー	1002, 1030, 1032, 1036 1054
トムソン	1066
東芝	1010, 1016, 1017, 1022 1024, 1039

困ったときは

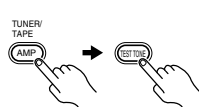
まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（17）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（37）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（37）
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（38）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（38）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 音声信号の設定はされていますか。デジタル入力端子の設定を正しく行ってください。（33）
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。（28）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（42〜45）
- スピーカーの「有/無と大きさ」、「距離」、「音量」設定を行ってください。（34〜36、50、51）

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してからTEST TONE（テスト トーン）ボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度TEST TONEボタンを押すと、テストトーンは止まります。

■表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

■テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。
  スピーカーの「有/無と大きさ」の設定を行ってください。（34）

■テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Orchestra（オーケストラ）」のときは、センタースピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが「Stereo（ステレオ）」、「Direct（ダイレクト）」、「Pure Audio（ピュア オーディオ）」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 「Dolby Digital（ドルビー デジタル）/DTS/AAC」の設定を「On（オン）」または「Auto（オート）」にしてください。

サブウーファーから音が出ない
- リスニングモードが「Direct」、「Pure Audio」になっていると、サブウーファーから音が出ません。

困ったときは

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。**（33）**
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。**（52）**
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

多重音声を切り換えできない

- 本機ではPCM信号の多重音声は切り換えできません。再生機器側で切り換えを行ってください。特に、DVDレコーダーで録画した音声多重放送は、デジタル接続の場合、再生機器側で主音声・副音声を切り換えても、切り換わらない場合があります。この場合、本機とアナログ接続をし、本機の入力をアナログにしてから、DVDレコーダー側で音声の切り換えを行ってください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。**（40）**

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- 入力切換の「MULTI CH」ボタンを押して、音声信号の種類を「Multich」にしてください。**（39）**

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

映像

映像が出ない

- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 前面パネルのPURE AUDIOインジケーターが点灯している場合は、LISTENING MODE◀/▶ボタンなどを押して、他のリスニングモードを選んでください。Pure Audioのリスニングモードになっていると、映像は出ません。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。**（19）**
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。**（19）**
- D端子とCOMPONENT端子を同じ系統で同時に接続しないでください。正しく映像が出力されません。**（19）**

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。**（8）**
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。**（8）**
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（12～15）**

オンキヨー製の他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12〜15）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE端子にMDレコーダーやCDレコーダーを接続した場合）（34）
- オンキヨー製他機器を操作するときは、リモコンを本機に向けて操作してください。

他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- 他メーカー機器を操作するときは、リモコンをそれぞれの機器に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。（38）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の主電源を切った状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「Clear」が表示され、スタンバイ状態になります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を6.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド
(DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

6.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

TX-SA502(53-E)(SN29343661) 61 04.3.22, 1:48 PM
ブラック

主な仕様

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
待機時電力：2.5W
最大外径寸法：435(幅)×150(高さ)×376(奥行)mm
質量：11kg

●映像入力：
D4：2（D4 VIDEO DVD IN、VIDEO 1/2/3）
コンポーネント:2(COMPONENT DVD IN、VIDEO 1/2/3)
S：4(DVD、VIDEO 1/2、VIDEO 3（前面パネル))
コンポジット:4(DVD、VIDEO 1/2、VIDEO 3 (前面パネル))

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUT）
S：2（VIDEO 1、MONITOR OUT）
コンポジット：2（VIDEO、MONITOR OUT）

●音声入力：
デジタル：3（OPTICAL2、COAXIAL1）
アナログ: 6(CD、TAPE、VIDEO 1/2、VIDEO 3(前面パネル)、TUNER)
マルチchアナログ：5.1ch

●音声出力：
デジタル：1（OPTICAL）
アナログ：2（TAPE、VIDEO 1）
サブウーファープリ出力：1
スピーカー出力：6
ヘッドホン出力：1

アンプ（音声）部

定格出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
105W 6Ω 1kHz、全高調波歪率0.1%以下
75W 8Ω 20Hz～20kHz、全高調波歪率0.08%以下
実用最大出力：
130W（6Ω、EIAJ）
全高調波歪率：0.08%（定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で60
入力感度/インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT：200mV/470Ω
周波数特性：
10Hz～100kHz：+1dB/−3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：±12dB（50Hz時）
Treble：±12dB（20kHz時）
SN比：
100dB（CD、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：6Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（COMPONENT、S VIDEO Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（COMPONENT PB/CB、PR/CR）
0.28Vp-p/75Ω（S Video C信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz～50MHz

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　TX-SA502
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.com/jp/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル　　0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または　　072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
G0403-1

SN 29343661